YAMAHA

取扱説明書

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

モーターサイクル

YZ85 (YZ85)
YZ85LW (YZ85LW)

B4B-28199-J4

重要項目ラベルの貼り付け位置 1
安全運転のために 2
各部の名称 3
各部の取り扱いと操作 4
日常点検 5
運転操作 6
点検整備 7
お車の手入れ 8
製品仕様 9
ユーザー情報 10
索引 11

はじめに

JAU41545

ヤマハ YZ85 / YZ85LW をお買いあげいただきありがとうございます。
この取扱説明書はお客様に車の操作、点検、整備をご理解いただけるよう作成されたものです。車の操作やメンテナンスなどに関するご質問は、ヤマハ販売店にお問い合わせください。
この車は一般市販車と異なり、クレーム保証の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。また、定期点検制度、アフターサービスの対象外となりますので、各自が日頃の点検整備を行って常に最良の調子を保つように心掛けてください。

重要な事項：

- この車は競技専用車両です。国土交通省の認定は受けておりませんので、一般公道での走行はできません。必ずモトクロスコースなどの専用コースでご使用ください。
- この車は MFJ 競技ライセンス取得者、または MFJ エンジョイ会員を対象にして作られています。ライセンスを取得せずに車を使用すると、トラブルなどの原因となるおそれがありますので、使用しないでください。
- 車に乗る前に、この取扱説明書をよく読んで、説明を理解してください。
- 車に貼られている警告ラベル、注意ラベルをよくお読みください。
- 適切なトレーニングまたは教育を受けないで、車を操作しないでください。

保護者の方へ重要なお知らせ：

この車は玩具ではありません。お子様を車に乗らせる前に、保護者の方が取扱説明書の説明や警告を理解してください。その上でお子様によく理解させ、またお子様を補佐してください。子供たちは、能力、体力、判断力が一人一人異なります。車を安全に操作することができない子もいます。保護者の方は、いつもお子様の車の使いかたを監督してください。お子様が安全に車を操作できると判断したとしても、できる限り目を配ってください。

モーターサイクルは二輪の乗り物です。安全に使用、操作できるかどうかは、操作する人のライディングテクニックと経験にかかっています。全ての使用者は、この車に乗る前に以下の必要条件を知っておいてください。

守ってください：

- 車の操作のあらゆる局面について、あらゆる情報から学ぶこと。
- この取扱説明書の警告や点検整備の要件を遵守すること。
- 安全で正しいライディングテクニックのトレーニングを受けること。
- 取扱説明書に示される時期、あるいは車の状態に応じて必要なときに、プロの整備を受けること。

重要な情報

JAU45991

本書では、重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています：

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ 警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

要　点

- 本書は車両の一部として常に車両とともに保管しておき、人に車両を譲るときは、必ず本書も渡してください。
- ヤマハでは、常に製品の設計および品質の改善をめざしております。したがって、本書に記載されている情報は、本書を印刷した時点で最新のものであり、実際の車両と本書の情報に多少の違いが生じている可能性があります。本書に関する疑問点については、ヤマハ販売店にお問い合わせください。

JWA10032

⚠ 警 告

車を使用する前に、この取扱説明書をよくお読みください。

JWA14352

⚠ 警 告

この車両はオフロード専用です。国土交通省の認定は受けておりませんので、一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。また、この車は騒音規制に適合しておりません。車を使用する前に、地方条例等を確認してください。

* 製品の仕様は、予告なしに変更されることがあります。

もくじ

重要項目ラベルの貼り付け位置...1-1

安全運転のために 2-1

各部の名称 3-1
- 左側面.....3-1
- 右側面.....3-2
- 運転装置と計器類.....3-3

各部の取り扱いと操作 4-1
- ハンドルスイッチ.....4-1
- クラッチレバー 4-1
- シフトペダル.....4-2
- ブレーキレバー 4-2
- ブレーキペダル 4-3
- フューエルタンクキャップ 4-3
- 燃料 4-4
- フューエルタンク ブリーザーホース 4-5
- フューエルコック.....4-5
- チョークノブ.....4-6
- キックスターター.....4-6
- シート.....4-7
- フロントフォークの調整.....4-7
- フロントフォークのエア抜き.....4-9
- リヤクッションの調整.....4-9
- 取り外し式サイドスタンド 4-12
- YPVS システム 4-12

日常点検.....5-1
- 日常点検の実施 5-1

運転操作.....6-1
- ならし運転.....6-1
- エンジン始動（エンジンが冷えているとき）.....6-2
- エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）.....6-3
- ギヤチェンジのしかた.....6-3
- ブレーキ 6-4
- 駐車.....6-5

点検整備.....7-1
- 定期点検整備項目（一般）と給油.....7-2
- スパークプラグの点検.....7-7
- トランスミッションオイル.....7-8
- 冷却水.....7-9
- エアクリーナーエレメントの清掃....7-11
- キャブレターの調整 7-12
- エンジンアイドリング回転数の調整.....7-12
- スロットルグリップの遊びの調整....7-13
- タイヤ.....7-13
- スポークホイール.....7-15
- アクセサリーと交換部品 7-15
- クラッチレバーの遊びの調整.....7-15
- ブレーキレバーの遊びの点検.....7-16
- シフトペダルの点検 7-17
- フロントおよびリヤブレーキパッドの点検.....7-17
- ブレーキ液量の点検 7-18
- ブレーキ液の交換.....7-19
- ドライブチェーン.....7-19
- ドライブチェーンの給油 7-21
- ケーブルの点検と注油 7-21
- スロットルグリップおよびケーブルの点検と注油 7-21
- ブレーキおよびクラッチレバーの点検と注油 7-22
- ブレーキペダルの点検と注油 7-22
- リヤサスペンションの注油.....7-23
- スイングアームピボットの注油.....7-23
- フロントフォークの点検 7-23
- ステアリングの点検.....7-24
- ホイールベアリングの点検.....7-24
- 車体の支持.....7-25
- フロントホイール 7-25
- リヤホイール 7-26
- こんなときは 7-27
- トラブルシューティングチャート....7-28

お車の手入れ.....8-1
- お車の手入れ 8-1
- 保管のしかた 8-2
- アフターケア用品について.....8-3

製品仕様 9-1

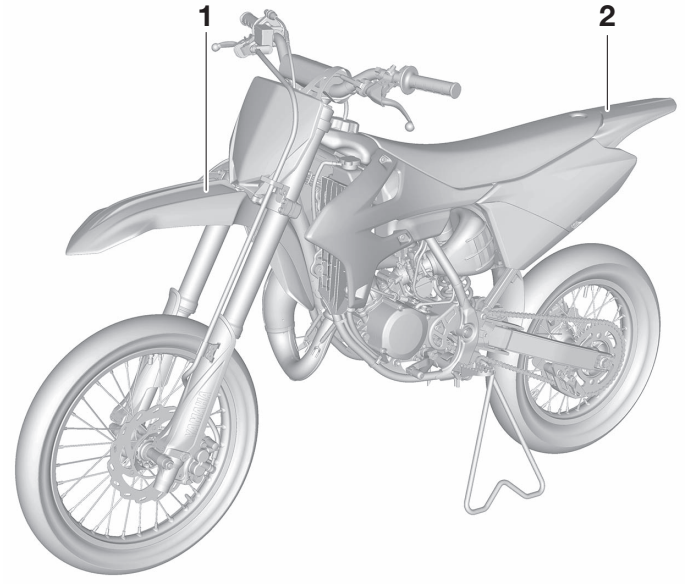
ユーザー情報.....10-1
- ID 番号 10-1
- 二輪車を廃棄する場合は？.....10-2
- サービスマニュアル（別売）の紹介 10-3

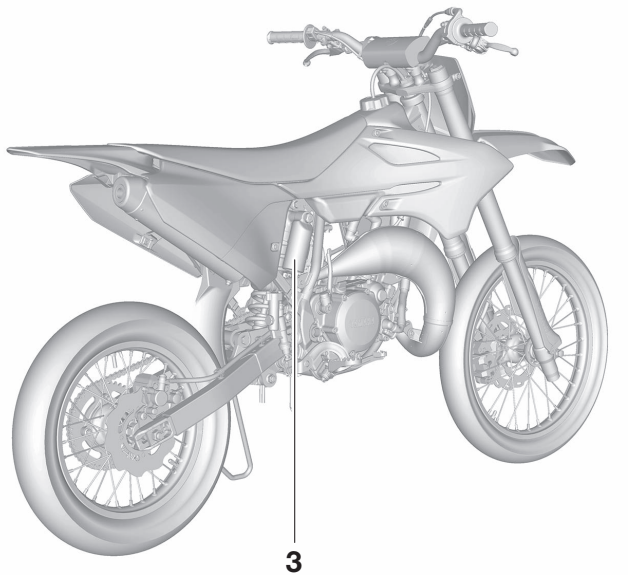
索引 11-1

重要項目ラベルの貼り付け位置

JAU10386

車両を運転する前に以下に示す重要ラベルをお読みください。





1

無鉛プレミアムガソリンとオイルの
混合燃料のみ使ってください。

3XJ-2415E-C2

2

⚠ 警　告

- ご使用の前には必ず取扱説明書とラベルをよく読んでください。
- この車は１人乗りです。
  運転者以外に人を同乗させると安定を失い危険です。
- この車は一般公道では走れません。
  一般公道を走行するために必要な保安部品を装備していません。
- 正しい服装で運転してください。
  ヘルメット、ゴーグル等の保護具を着用してください。

5PA-2118K-21

3

⚠ 警　告

高圧窒素ガス入りです。
取扱いを誤ると爆発する恐れがあります。
●取扱説明書をよく読んでください。
●火中への投入、穴あけ、分解はしないでください。

4AA-22259-50

安全運転のために

JAU4121C

2

使用者の責任

車両の使用者として、安全で適切な操作を行う責任があります。
バイクは二輪の乗り物です。安全に利用、運転するためには、適切な運転技術と運転知識を備えている必要があります。この車を運転するには、次の条件を満たしていなければなりません。
運転者は：

- 車の操作に関するあらゆる局面について、あらゆる情報から学ぶこと。
- この取扱説明書の警告や点検整備の要件を遵守すること。
- 安全で正しいライディングテクニックのトレーニングを受けること。
- 取扱説明書に示される時期、あるいは車の状態に応じて必要なときに、充分な整備技術のある整備士の整備を受けること。

安全運転

走行前には必ず点検を行い、車両が安全に運転できる状態にあるかを確認してください。点検整備を怠ると、事故や車両の損傷につながる可能性が高くなります。走行前点検については、5-1 ページを参照してください。

- この車両はオフロード専用です。一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。また、私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。
- この車両は一人乗り専用です。運転者以外の人を乗せることはできません。
- バイク事故の主な原因は、他の車両のドライバーが走行中のバイクを見落としたり、発見が遅れることによります。多くの事故が、他の車両のドライバーがバイクに気づかなかったことで起きています。こうした見落とし事故を減らすため、周りから認知されやすい目立つ服装を心がけてください。

  具体的には：
  - 明るい色の服を着用してください。
  - 他の運転者から見える位置を走行してください。運転者の死角を走行しないでください。
- 経験不足のライダーが多くの事故に巻き込まれています。
  - ライダーはバイクに乗る技量が充分な人でなければなりません。またバイクに乗る技量が充分な人のみに貸すようにしてください。
  - ご自身の技量と限界を熟知してください。自分の限界を超えないことが事故防止には大切です。
  - バイク自体とすべての運転操作に慣れるまで、運転操作の練習をすることをおすすめします。
- 多くの事故はライダーのミスによって起きます。典型的な例は、スピードの出し過ぎやバンク角不足によってコーナーを曲がりきれなくなることです。速すぎる速度で走行しないでください。
- 慣れない場所では注意して運転してください。隠れた障害物に出くわし、事故につながるおそれがあります。
- ライダーの姿勢は、正しい運転操作の上で重要です。両手でハンドルを握って、両足をフットレストに置き、車両をコントロールしてください。
- 酒気を帯びているとき、また薬を飲んだときは運転しないでください。
- エンジンを始動する前に、必ずギヤをニュートラルにしてください。

身体を保護する服装

バイクの事故による死亡原因のトップは頭部への傷害です。頭部への傷害を防いだり軽減させるために、必ずヘルメットを着用してください。

- ヘルメットはPSCまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。
- ヘルメットのシールドまたはゴーグルを着用してください。目を保護しないと、風圧の影響で視力が落ち、危険物の発見が遅れるおそれがあります。
- すり傷、切り傷を防ぐため、ジャケット、ブーツ、ズボン、グローブなどを着用してください。

- だぶついた服は着用しないでください。レバー、フットレスト、ホイールなどにからまり、傷害や事故につながるおそれがあります。
- 防護服を必ず着用し、つま先、かかと、脚部を露出させないでください。運転中や運転直後は、エンジンや排気装置が非常に高温になるため、ヤケドするおそれがあります。

一酸化炭素中毒の予防

すべての排気ガスは、有毒な一酸化炭素を含んでいます。一酸化炭素を吸い込むと、頭痛、めまい、眠気、吐き気、意識障害を起こし、最悪の場合、死亡するおそれがあります。
一酸化炭素は無味無臭で無色のガスです。このため、排気ガスが見えない状態や臭いがしない状態でも無意識のうちに一酸化炭素を吸ってしまうおそれがあります。一酸化炭素をいったん吸い込むと、すぐに致死量に達して短時間のうちに意識不明となり死亡するおそれがあります。また、密閉された場所や換気が不充分な場所では、数時間や数日にわたって致死量レベルの一酸化炭素が残ってしまうおそれがあります。万一、中毒症状が現れた場合は、すぐに換気のよいところに移動し、医師の手当てを受けてください。

- 屋内でエンジンをかけないでください。換気扇を回したり窓やドアを開けて換気しても、短時間のうちに一酸化炭素が充満するおそれがあり危険です。
- 倉庫や車庫などの、換気が不充分な場所や閉鎖的な場所でエンジンをかけないでください。
- 屋外であっても、排気ガスが窓やドアなどの開口部から建物の中に吸い込まれる可能性がある場所では、エンジンをかけないでください。

積載

アクセサリーの装着によって車両の重量配分が変化した場合、操縦安定性やハンドリングに重大な影響を及ぼします。アクセサリーを装着するときは、充分に注意してください。また、アクセサリーを取り付けた車両を運転するときは、充分に注意してください。以下は車両にアクセサリーを装着する際に守るべき、一般的なガイドラインです。

過積載車両の運転は事故を引き起こすおそれがあります。

- 体重が 62.0 kg を超えるライダーは乗車しないでください。
- アクセサリーの重量はできるだけ、軽いものにしてください。いちばん重いものを車両の中心近くに積載し、なるべく車両の重量を左右均等に配分させ、偏ったり、不安定な状態はさけてください。
- 重量が移動すると、急に不安定になるおそれがあります。アクセサリーは、運転前に車両に確実に取り付けるようにしてください。アクセサリーの取り付け状態をこまめに点検してください。
  - タイヤの状態と空気圧を点検し、サスペンションの調整が可能なモデルについては、負荷に合わせてサスペンションを調整してください。
  - ハンドル、フロントフォーク、フロントフェンダーには大きなアクセサリーや重量のあるアクセサリーを取り付けないでください。

ヤマハ純正アクセサリー

アクセサリーを装備する場合は、慎重に製品を選んでください。ヤマハ純正アクセサリーは、ヤマハによって設計、テスト、および車両への使用が認められたアクセサリーです。ヤマハと無関係な多くのメーカーで、ヤマハ車用のパーツやアクセサリーが製造されていたり、その他の改造品が提供されています。ヤマハは、アフターマーケットで販売されているこうした製品をテストすることができません。したがって、ヤマハ製以外のアクセサリーの使用やヤマハで特に推奨していない改造については、ヤマハの販売店で販売されていたり取り付けが行われた場合でも、保証および推奨できません。

アフターマーケット製品、アクセサリー、改造

デザインや品質面でヤマハ純正アクセサリーと類似しているアフターマーケット製品でも、一部のアフターマーケット製品や改造は、安全上、問題となる場合があります。アフターマーケット製品の取り付けや、車両の設計特性や操作性を変えてしまうようなその他の改造を行うと、運転者や周囲の人が重傷や死亡に至る危険性を高める場合があります。車両の加工や改造に関連したけがや損害については、使用者の自己責任となります。

アクセサリーを取り付ける場合は、前述の「積載」の注意と合わせて次のことに注意してください。

- 車の性能を損なうアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーを装備する場合は、アクセサリーの取り付けによって、地上高やコーナリングクリアランスが減らないか、サスペンションの動き、ステアリングの取り回し、制御操作が妨げられないかを、事前に念入りに点検してください。
  - ハンドルやフロントフォークにアクセサリーを取り付けると、重量配分の変化によって安全性が損なわれる場合があります。ハンドルやフロントフォークにアクセサリーを取り付ける場合は、できるだけ軽量のものを最小限取り付けるようにしてください。
  - 大型でかさばるアクセサリーは、車の安定性に大きな影響を与える場合があります。風を受けて車が浮き上がりそうになったり、横風にバランスを崩される可能性があります。
  - アクセサリーによっては、運転者が通常の乗車位置に座れなくなる場合があります。乗車位置が不適切だと体の動きが制限され、車両制御に影響を与えるおそれがあるため、こうしたアクセサリーの装備はおすすめしません。
- 電装アクセサリーの取り付けには注意が必要です。電装アクセサリーが電気系統の容量を超えると、電気系統が故障し、照明装置などの機能低下やエンジン出力低下の原因となり危険です。

アフターマーケット製のタイヤとリム

車両に装着されているタイヤとリムは、車両の性能に合わせて、最適な操縦性、制動性、乗り心地が得られるように設計されています。指定外のタイヤ、リム、サイズを組み合わせての装着は、不都合が生じる場合があります。タイヤの仕様と交換について、7-13 ページを参照してください。

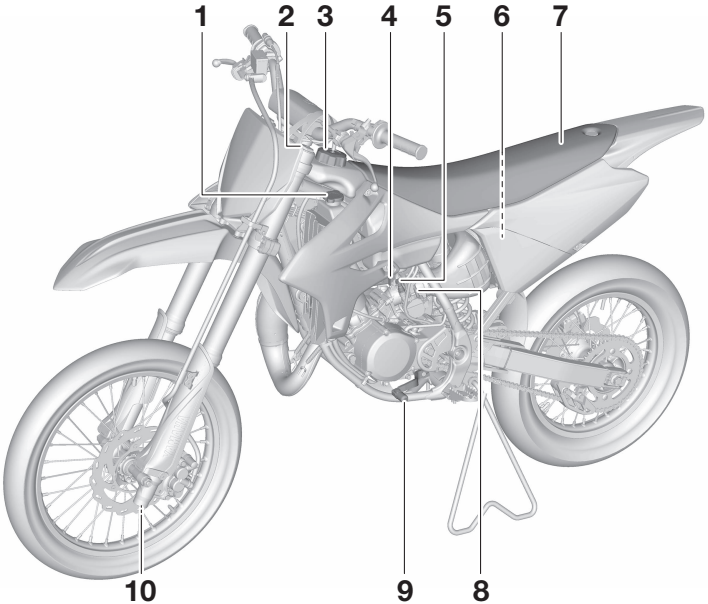
運搬

車を運搬する際は、下記の内容を必ず守ってください。

- 車から、運搬中落下の可能性がある部品を取り外してください。
- フューエルコック装備車の場合、フューエルコックが OFF になっているか、また燃料漏れしていないかを確認してください。
- トレーラーの上またはトラックの荷台で、車のフロントホイールをまっすぐにし、フロントホイールをレールなどでしっかりと固定してください。
- マニュアルミッション車の場合、ギヤを入れてください。
- しっかりとした部分、例えばフレームまたはフロントフォークのアンダーブラケットなどを、固定用ベルトまたは適当なひもを使用して固定してください。（ラバーマウントのハンドルまたは方向指示灯などの壊れやすい部分を固定しないでください。）なお、運搬中に塗装面をこすらないように、慎重にひもを掛ける場所を選んでください。
- 運搬中に車がおおきくバウンドしないように、固定用ベルトなどでリヤサスペンションをある程度まで圧縮させてください。

JAU10411

左側面

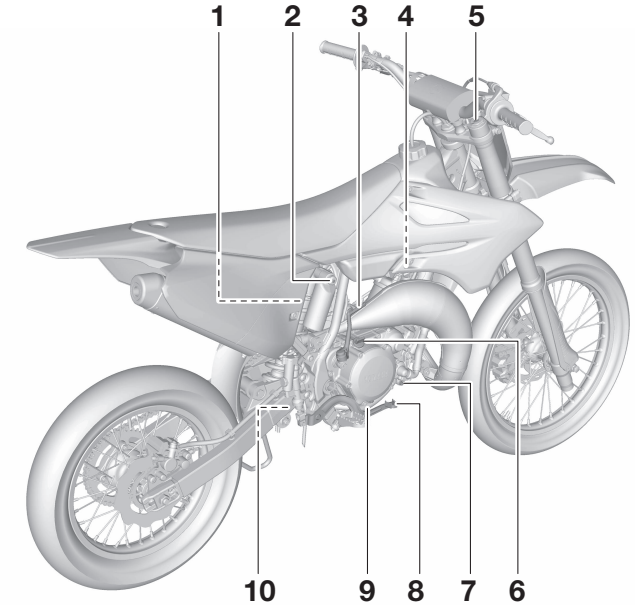


1. ラジエターキャップ (P7-9)
2. 伸側減衰力アジャスター (P4-7)
3. フューエルタンクキャップ（P4-3）
4. フューエルコック（P4-5）
5. チョークノブ（P4-6）
6. エアクリーナーエレメント（P 7-11）
7. シート (P4-7)
8. スロットルストップスクリュー（P7-12）
9. シフトペダル（P4-2）
10. 圧側減衰力アジャスター（P4-7）

各部の名称

JAU10421

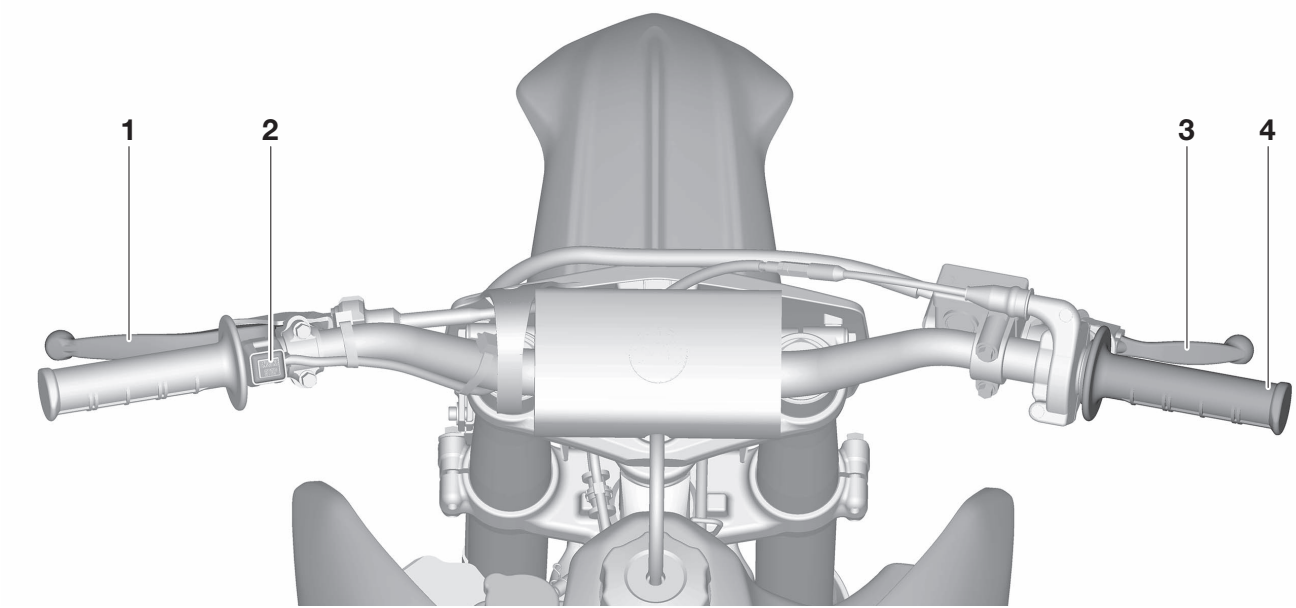
右側面



1. スプリングプリロードアジャスター (P4-9)
2. 圧側減衰力アジャスター（P4-9）
3. キックスターター（P4-6）
4. スパークプラグキャップ (P7-7)
5. ブリードスクリュー (P 4-9)
6. オイル注入口キャップ（P7-8）
7. 冷却水ドレンボルト（P7-10）
8. ブレーキペダル（P4-3）
9. トランスミッションオイルドレンボルト (P7-8)
10. 伸側減衰力アジャスター（P4-9）

JAU10431

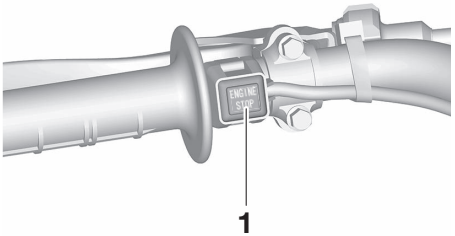
運転装置と計器類



1. クラッチレバー（P7-15）
2. エンジンストップスイッチ（P 4-1）
3. ブレーキレバー（P4-2）
4. スロットルグリップ（P7-13）

JAU40661

ハンドルスイッチ



1. エンジンストップスイッチ “ENGINE STOP”

JAU53962

エンジンストップスイッチ “ENGINE STOP”

スイッチを押すとエンジンは停止します。

要　点

スイッチは、エンジンが停止するまで押し続けてください。

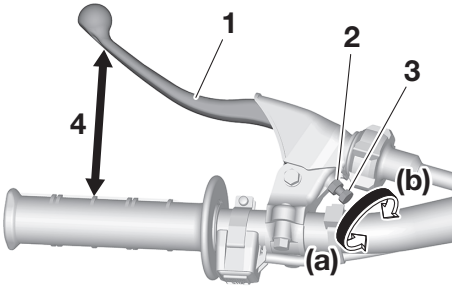
JAU64023

クラッチレバー

クラッチレバーは、ハンドルの左側に取り付けられています。クラッチを切るにはレバーを握ります。クラッチを繋げるにはレバーを放します。レバーを握るときは早く、放すときはゆっくりと行うと、スムーズなクラッチ操作ができます。

クラッチレバーには握り幅調整ボルトが付いています。クラッチレバーとハンドルバーグリップとの距離の調整は以下のように行います。

1. ロックナットをゆるめます。
2. レバーを握りながら、握り幅を大きくするときは、握り幅調整ボルトを (a) 方向に回します。握り幅を小さくするときは、握り幅調整ボルトを (b) 方向に回します。

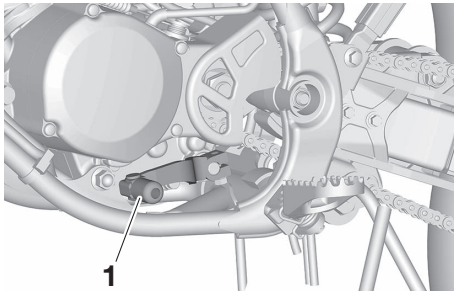


1. クラッチレバー
2. ロックナット
3. 握り幅調整ボルト
4. 握り幅

3. ロックナットを締め付けます。

JAU12876

シフトペダル



1. シフトペダル

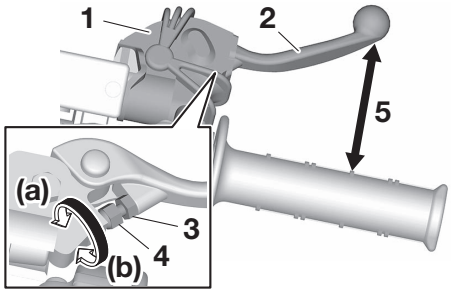
シフトペダルは車両の左側にあります。シフトアップするにはシフトペダルを上に動かします。シフトダウンするにはシフトペダルを下に動かします。（6-3 ページ参照）

JAU41267

ブレーキレバー

ブレーキレバーは、ハンドルの右側に取り付けられています。フロントブレーキをかけるには、このレバーをスロットルグリップに向けて握ります。
ブレーキレバーには握り幅調整ボルトが付いています。ブレーキレバーとスロットルグリップとの距離の調整は以下のように行います。

1. ゴムカバーをずらします。
2. ロックナットをゆるめます。
3. レバーをスロットルグリップから遠ざける方向に押しながら、握り幅を大きくするときは、握り幅調整ボルトを (a) 方向に回します。握り幅を小さくするときは、握り幅 調整ボルトを (b) 方向に回します。

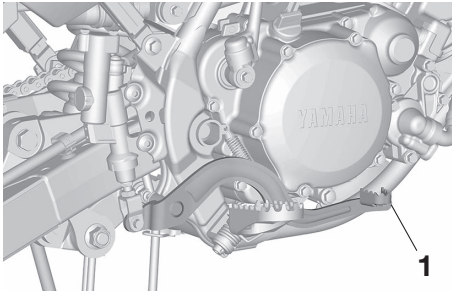


1. ゴムカバー
2. ブレーキレバー
3. ロックナット
4. 握り幅調整ボルト
5. 握り幅

4. ロックナットを締め付けます。
5. ゴムカバーを元の位置に戻します。

JAU12944

ブレーキペダル



1. ブレーキペダル

ブレーキペダルは、車体の右側にあります。リヤブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏み込みます。

JAU13183

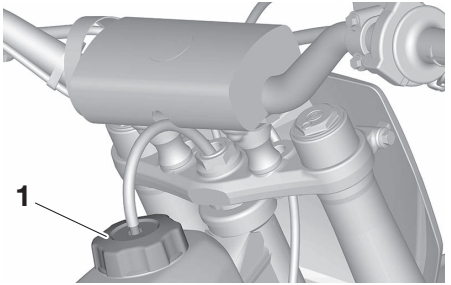
フューエルタンクキャップ

JWA12172

警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**



1. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップを取り外すときは、キャップを反時計方向に回して取り外します。
フューエルタンクキャップを取り付けるときは、キャップを給油口に挿入し、時計方向に回して取り付けます。

JWA11092

警 告

運転する前に、フューエルタンクキャップが正しく締まっているか確認してください。

JAU41838

燃料

この車はガソリンとエンジンオイルの混合燃料を使用するように設計されています。常に乗車前に、ガソリンとエンジンオイルを容器で混合してから、フューエルタンクに給油してください。

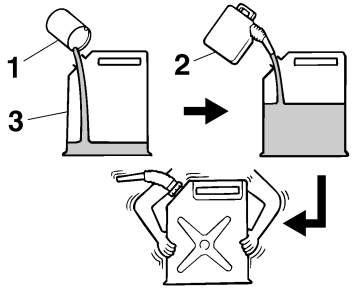
JCA15602

注 意

常に新しいガソリンを使用し、乗車のすぐ前にガソリンとオイルの混合を行って給油してください。混合してから数時間経った混合燃料は使用しないでください。

ガソリンとエンジンオイルの混合のしかた

きれいな容器にヤマルーブ2Rを注ぎ入れ、続けてガソリンを加えます。容器を左右に振ってガソリンをよく混ぜます。



1. ヤマルーブ 2R
2. ガソリン
3. 容器

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
推奨オイル：
ヤマルーブ 2R
タンク容量：
5.0 L
混合比（ガソリンとオイル）：
ならし運転期間：15:1
ならし運転終了後：30:1

JCA15591

注 意

無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンの使用はピストンリング、排気系統などのエンジン部品に損傷を生じるおそれがあります。

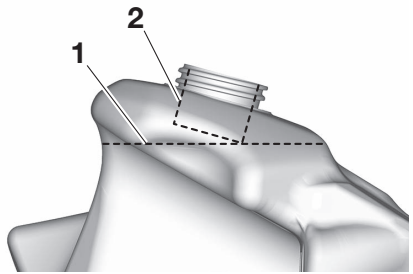
この車のエンジンは、無鉛プレミアムガソリンを使用するよう設計されています。もしノッキング（またはピンギング）が起きた場合は、違う銘柄のガソリンを使ってみてください。
推奨オイルがないときは、同等のオイルを使用してください。

JCA15552

注 意

エンジンの性能を最高に発揮させるため、常に同じタイプのエンジンオイルを使用し、2種類の違う銘柄のエンジンオイルを混ぜないでください。
違う銘柄のエンジンオイルを使用する場合、フューエルタンクとキャブレターのフロートチャンバーから古い混合燃料を抜き取ってから新しい銘柄を使用してください。

フューエルタンクへの給油のしかた



1. 給油限度
2. フィラーチューブ

図のようにフィラーチューブの下部まで給油してください。

JWA10882

警 告

- **給油限度を超えてガソリンを入れると、ガソリンが温まって膨張したときにあふれるおそれがあります。**
- **高温のエンジンにガソリンをこぼさないように注意してください。**

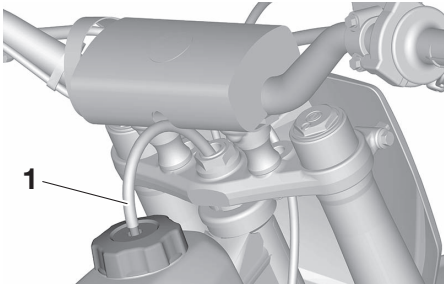
JCA10072

注 意

こぼれたガソリンは、きれいな乾いた柔らかい布で直ちにふき取ってください。放置しておくと、塗装面やプラスチック部分を損傷するおそれがあります。

JAU13414

フューエルタンクブリーザーホース



1. フューエルタンクブリーザーホース

乗車の前に：

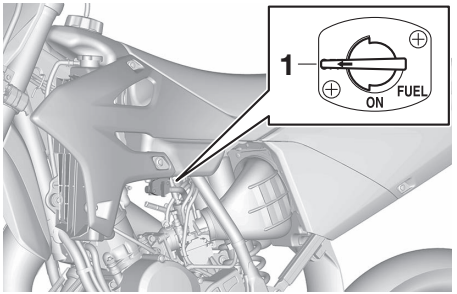
- フューエルタンクブリーザーホースの接続を点検します。
- フューエルタンクブリーザーホースを点検します。ひび、損傷がある場合はヤマハ販売店へ交換を依頼してください。
- フューエルタンクブリーザーホースがつまっていないか確認し、必要に応じて清掃します。

JAU41281

フューエルコック

フューエルコックは、フューエルタンクからキャブレターへと燃料をろ過しながら供給します。
このフューエルコックには２つの位置があります。

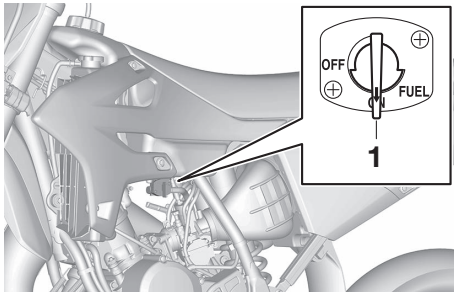
OFF



1. “OFF”

駐車時のレバー位置です。ガソリンは流れません。エンジンがかかっていないときはレバーを常にこの位置にしてください。

ON

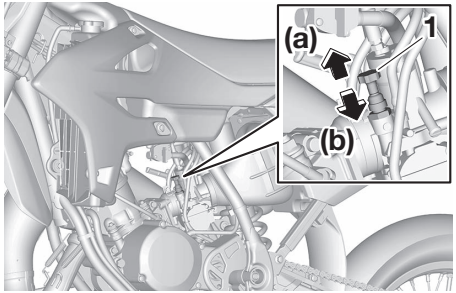


1. “ON”

始動および走行時のレバー位置で、ガソリンが流れます。

JAU13641

チョークノブ

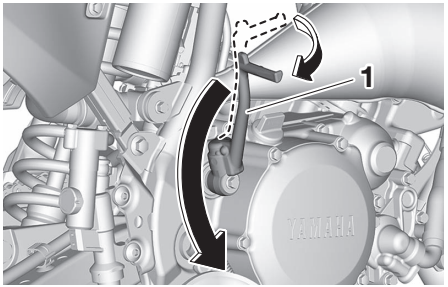


1. チョークノブ

エンジンが冷えているときは、チョークを使用すると始動が容易になります。
ノブを (a) 方向に引き、チョークをオンにします。
ノブを (b) 方向に戻し、チョークをオフにします。

JAU13651

キックスターター



1. キックスターターレバー

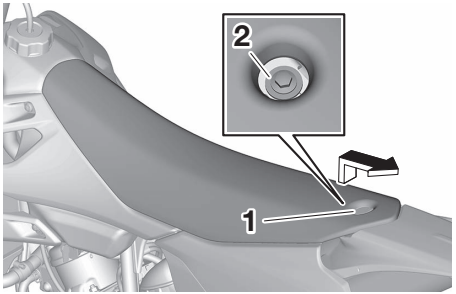
キックスターターレバーを出し、力強くキックします。この車はギヤの位置にかかわらず、クラッチレバーを握れば始動できるプライマリーキック方式を採用していますが、ギヤをニュートラルにしてからキックしてください。

JAU94040

シート

シートの取り外しかた

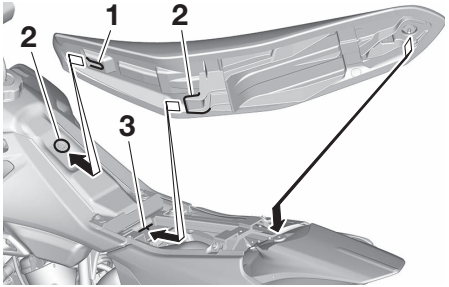
キャップを開けてボルトを外し、シートの後部を持ち上げ、シートを後方に引いて取り外します。



1. キャップ
2. ボルト

シートの取り付けかた

1. 図のようにシート前部の溝をフューエルタンク上の突起に合わせ、シートの突起をホルダーに差し込みます。



1. 溝
2. 突起
3. ホルダー

2. シートを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けてキャップを閉めます。

要　点

乗車する前に、シートが正しく取り付けられていることを必ず確認します。

JAU84383

フロントフォークの調整

JWA10181

警 告

左右のフォークは同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

フロントフォークには、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

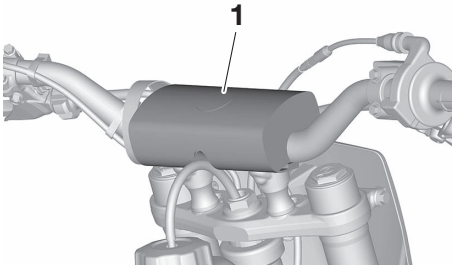
JCA10102

注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

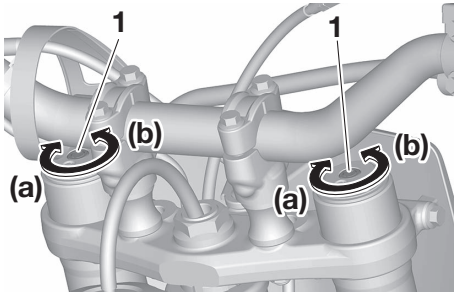
伸側減衰力

1. プロテクターを取り外します。



1. プロテクター

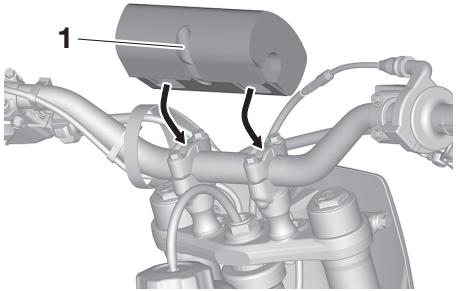
2. 減衰力アジャスターを(a)方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
   減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 20 段
標準：
(b) 方向へ 7 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

3. プロテクターを取り付けます。



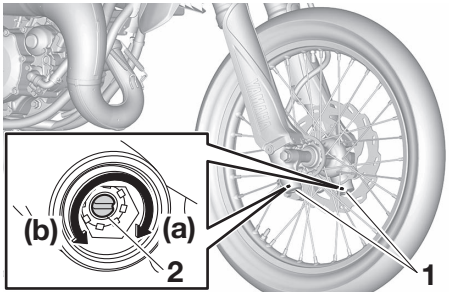
1. ノッチ

要　点

- プロテクターは、図のようにノッチ側が車両後方になるように取り付けてください。
- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力

1. ゴムキャップをフロントフォークから取り外します。
2. 減衰力アジャスターを(a)方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
   減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. ゴムキャップ
2. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 20 段
標準：
(b) 方向へ 10 (YZ85LW)
12 (YZ85) 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

3. キャップを取り付けます。

要　点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JAU84390

フロントフォークのエア抜き

走行により、フロントフォーク内の温度が上がると、フォーク内の空気圧が上昇し、フロントサスペンションは固くなります。このような場合、以下のようにしてフロントフォークのエア抜きを行います。

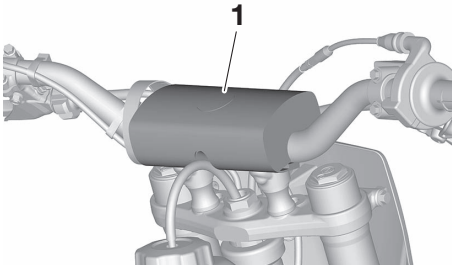
JWA10201

警 告

エア抜きは左右のフロントフォークに対して行ってください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

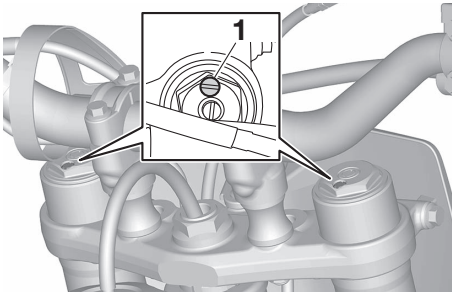
エア抜きのしかた

1. プロテクターを取り外します。



1. プロテクター

2. エンジンの下に適当なスタンドを置きます。（7-25 ページ参照）
3. フロントホイールを持ち上げて、ブリードスクリューのまわりを清掃します。
4. ブリードスクリューを外します。



1. ブリードスクリュー

5. 数秒待ってからブリードスクリューを取り付けます。
6. プロテクターを取り付けます。

JAU4133A

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

JCA10102

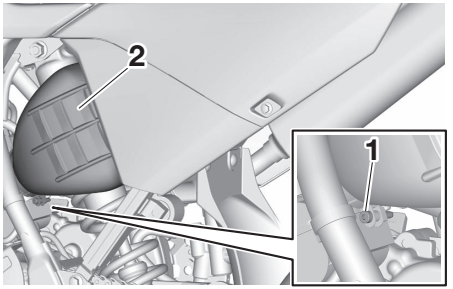
注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

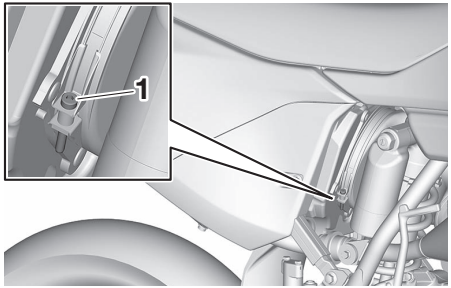
スプリングプリロード

スプリングプリロードの調整は以下のように行います。

1. クランプボルトをゆるめて、エアクリーナージョイントを取り外します。

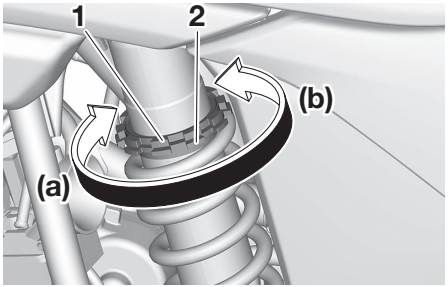


1. クランプボルト
2. エアクリーナージョイント



1. クランプボルト

2. ロックナットをゆるめます。
3. プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。

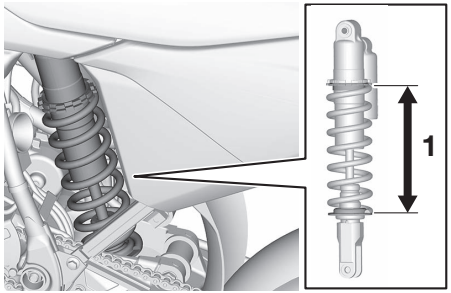


1. ロックナット
2. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を短くすると、スプリングプリロードは大きくなり、長くすると小さくなります。

要　点

- この調整に使うスペシャルレンチはヤマハ販売店で入手できます。
- アジャスターを 1 回転するごとに、セット長 A は 1.5 mm ずつ変化します。



1. セット長 A

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
セット長 A = 218.5 mm
標準：
セット長 A = 210.0 mm (YZ85LW)
215.0 mm (YZ85)
最大（ハード）：
セット長 A = 202.0 mm

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
30 N·m (3.0 kgf·m)

JCA10122

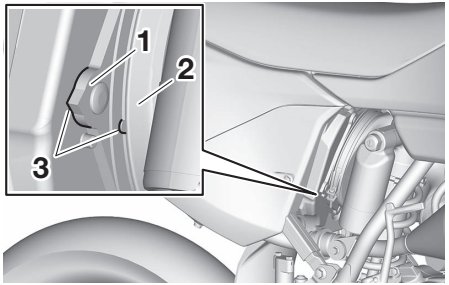
注 意

ロックナットはアジャスターにあたるまで締め込んでから、規定のトルクで締め付けてください。

5. エアクリーナージョイントを元の位置に組み付け、クランプボルトを締め付けます。

要　点

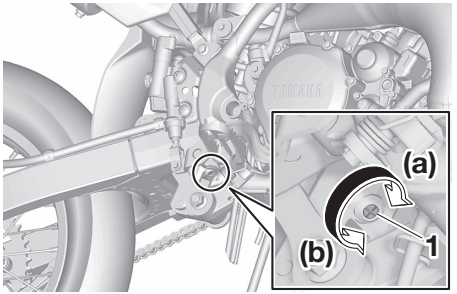
エアクリーナージョイントの突起をフレームガイドの突起に合わせます。



1. フレームガイド
2. エアクリーナージョイント
3. 突起

伸側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

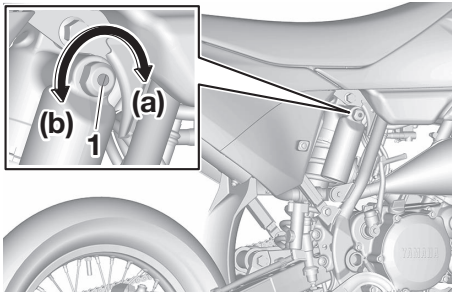
伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 20 段
標準：
(b) 方向へ 10 (YZ85LW)
6 (YZ85) 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

要　点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 15 段
標準：
(b) 方向へ 10 (YZ85LW)
9 (YZ85) 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

要　点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JWA10222

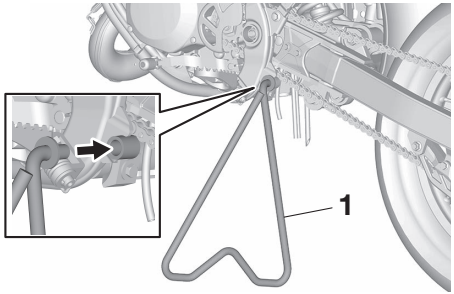
警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

JAU41382

取り外し式サイドスタンド



1. サイドスタンド

この車は取り外し式サイドスタンドを装備しています。

要　点

車両を支えるときや、運搬するときにはサイドスタンドが確実に装着されているか確認してください。

JWA14602

警 告

- **サイドスタンドを立てているとき、車体に余分な力をかけないでください。**
- **発進前には常にサイドスタンドを取り外してください。**

JAU84180

YPVS システム

このモデルのエンジンは、ヤマハパワーバルブシステム（YPVS）を装備しています。このシステムは、排気ポートの開口面積を制御するバルブによってエンジン出力を向上させます。

JCA26380

注 意

YPVS システムは膨大なテスト結果を元に調整されています。充分な専門知識がないまま YPVS の設定を変更すると、エンジン性能の低下やエンジンを損傷させるおそれがあります。

日常点検

JAU42185

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、走行前点検リストに基づいた日常点検を必ず実施してください。

JWA12032

警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要　点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

走行前点検リスト

項目	点検、整備内容	参照ページ
燃料	● フューエルタンクの残量を点検します。 ● 常に新鮮な混合ガソリンを使用します。 ● フューエルホースに漏れがないか点検します。 ● フューエルタンクブリーザーホースにつまり、ひび、損傷がないか、また正しく接続されているか点検します。	4-4, 4-5
トランスミッションオイル	● オイル漏れがないか点検します。	7-8
冷却水	● 冷却水量を点検します。 ● 必要に応じて指定の冷却水を規定量まで補充します。 ● 冷却システムに漏れがないか点検します。	7-9
フロントブレーキ	● 作動を点検します。 ● レバーの操作具合が柔らかいか、スポンジを握るようなフワフワの感覚であれば、ヤマハ販売店で油圧系統のエア抜きを行ってください。 ● ブレーキパッドの摩耗を点検します。 ● 必要に応じて交換します。 ● ブレーキ液の量を点検します。 ● 必要に応じて指定のブレーキ液を規定の量まで補充します。 ● 油圧系統に漏れがないか点検します。	7-17, 7-18

項目	点検、整備内容	参照ページ
リヤブレーキ	● 作動を点検します。 ● ペダルの操作具合が柔らかいか、スポンジを握るようなフワフワの感覚であれば、ヤマハ販売店で油圧系統のエア抜きを行ってください。 ● ブレーキパッドの摩耗を点検します。 ● 必要に応じて交換します。 ● ブレーキ液の量を点検します。 ● 必要に応じて指定のブレーキ液を規定の量まで補充します。 ● 油圧系統に漏れがないか点検します。	7-17, 7-18
クラッチ	● 作動を点検します。 ● レバーの遊びを点検します。 ● 必要に応じて調整します。 ● 必要に応じてケーブルに注油します。	7-15
スロットルグリップ	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● スロットルグリップの遊びを点検します。 ● 必要に応じて、スロットルグリップの遊びを調整します。	7-13, 7-21
ドライブチェーン	● チェーンのたわみ量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。 ● チェーンの状態を点検します。 ● ヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。	7-19, 7-21
ドライブスプロケット	● ドライブスプロケットナットが規定トルクで締まっているか点検します。 ● 必要に応じて締め付けます。	–
ホイールとタイヤ	● 損傷がないか点検します。 ● タイヤの状態と溝の深さを点検します。 ● 空気圧を点検します。 ● 必要に応じて調整、交換します。 ● 必要に応じてスポークのゆるみ、締め付けを点検します。	7-13, 7-15
シフトペダル	● 作動が滑らかであるか点検します。 ● シフトペダルボルトが規定トルクで締まっているか点検します。 ● 必要に応じて調整します。	7-17
ブレーキペダル	● 作動が滑らかであるか点検します。 ● 必要に応じてペダルの取り付け部分に注油します。	7-22

日常点検

項目	点検、整備内容	参照ページ
ブレーキレバーとクラッチレバー	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じてレバーの取り付け部に注油します。	7-22
ステアリング	● ハンドルバーが滑らかに動くか、がたつきがないか点検します。	7-24
フロントフォークとリヤクッション	● 作動が滑らかか、オイル漏れがないかを点検します。	4-7, 4-9, 4-9, 7-23
車体の締付具合	● ナット、ボルト、スクリューが規定トルクで締まっているか点検します。 ● すべてのコッタピンに損傷がないか、また正しく取り付けられているか点検します。 ● 必要に応じて締め付けるか、または交換します。	—
可動部とケーブル	● ケーブル類に損傷がないか点検します。 ● ケーブル類が滑らかに動くか点検します。 ● ハンドルバーを回したときやフロントフォークが上下したときに、ケーブル類がからまないか点検します。 ● 必要に応じて可動部やケーブルに注油します。	7-21, 7-22, 7-23, 7-23
排気系統	● エキゾーストパイプとマフラーがきちんと締め付けられているか、亀裂がないか点検します。 ● 漏れがないか点検します。	—
エンジンストップスイッチ	● 作動を点検します。	4-1
点火系統	● 全ての配線やケーブル類が正しく接続されているか点検します。	7-7

JAU46041

JWA14611

警 告

- **この車両はオフロード専用です。乗車前に各部の取り扱いと操作に慣れてください。操作でご不明な場合はヤマハ販売店にご相談ください。**
- **風通しの悪い場所でエンジンを始動したり、かけたままにしないでください。排気ガスには毒性があり、短時間のうちに意識を失ったり、死を招くおそれがあります。常に風通しのよい場所でエンジンを始動してください。**
- **発進の前に、サイドスタンドを取り外してください。サイドスタンドを取り外さないと地面に接地し、ライダーを混乱させたり車両のバランスを損ない、操縦安定性を損なわせるおそれがあります。**

JAU41508

ならし運転

JWA10322

警 告

点検整備を怠ったり正しく整備を行わないと、乗車中や整備中、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。整備作業について自信がない場合は、ヤマハ販売店に作業を依頼してください。

要　点

エンジンの初回始動時は、エアクリーナーにオイルを塗布してください。（7-11 ページ参照）

ならし運転のしかた

1. 以下のならし運転時期の混合比の燃料をフューエルタンクに入れてください。

推奨オイル：
ヤマルーブ 2R
混合比（ガソリンとオイル）：
15:1

2. エンジンを始動します。エンジンストップスイッチの機能の点検を行います。（4-1 ページ参照）
3. 5 ～ 8 分間スロットルを適度に開け、低速ギヤで走行します。エンジンを停止し、スパークプラグの状態を点検します。(7-7 ページ参照) ならし運転中のスパークプラグは、黒く湿った状態になっています。
4. エンジンを冷やします。エンジンを再始動し、手順 3 と同様に走行します。それから短い間隔で高いギヤにシフトし、フルスロットルのレスポンスを点検します。エンジンを停止し、スパークプラグを点検します。
5. 再びエンジンを冷やした後、再始動して 5 分以上走行させます。フルスロットルかつ高速ギヤを使っても構いませんが、フルスロットルにし続けるのは避けてください。エンジンを停止し、再度スパークプラグの状態を点検します。
6. エンジンを冷やし、シリンダーヘッドとシリンダーを取り外し、ピストンとシリンダーを点検します。ピストンの焼き付き跡を # 600 のサンドペーパーで取り除きます。全ての部品を清掃し、シリンダーとシリンダーヘッドを注意深く組み付けます。
7. ならし運転用の混合燃料をフューエルタンクから抜き、指定の混合比の燃料を給油します。（4-4 ページ参照）
8. エンジンを再始動し、低速から高速のギヤで全域を点検するように走行します。エンジンを停止し、スパークプラグの状態を点検します。淡いキツネ色になっているかを点検します。

9. 再始動し、10 ～ 15 分以上走行します。エンジンを停止し、スパークプラグの状態を点検します。(7-7 ページ参照) 以上で通常走行できる準備が整いました。
10. ならし運転が終了したら、部品のゆるみ、オイル漏れ、その他の問題がないか車両全体を点検します。加えて、全ての部品の取り付け状態、ゆるみを点検し、必要であれば増し締めします。

要　点

念入りに点検し、隅々まで（特にケーブル類、ドライブチェーンの張り、スポークのゆるみなど）調整します。

エンジンのオーバーホールに関する注意

以下の部品を交換した場合、必ずならし運転を行ってください。

- ピストン、リングまたはトランスミッションのギヤ：これらの部品はスロットル開度を半分以下で約 30 分のならしが必要です。
- シリンダーまたはクランクシャフト：約 1 時間のならし運転が必要です。

要　点

ならし期間中、エンジンの状態に注意してください。

JCA10271

注 意

ならし運転の間にエンジントラブルが発生したときは、すぐにヤマハ販売店にて車両を点検してください。

JAU41308

エンジン始動（エンジンが冷えているとき）

1. フューエルコックを ON にします。
2. ギヤをニュートラルにします。
3. チョークをオンにし、スロットルを完全に閉じます。（4-6 ページ参照）
4. キックして、エンジンを始動させます。

JCA15992

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

5. エンジンが暖まったら、チョークをオフにします。

JCA15671

注 意

- **チョークをオンにしたまま、長時間放置しないでください。故障の原因になるおそれがあります。**
- **走行するときは必ず、チョークをオフにしてください。**

要　点

チョークをオフにした状態でエンジンがスロットルにすぐに反応すれば、エンジンは暖まっています。

JAU16661

エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）

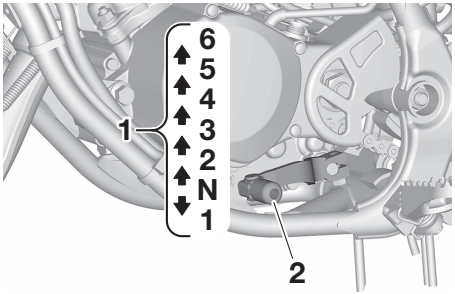
エンジンが暖まっているときは、チョークを必要としないことを除いて、エンジンが冷えているときのエンジン始動と同じ手順で行います。その代わり、スロットルを少し開けた状態でエンジンを始動させます。

要　点

数回キックしてもエンジンが始動しない場合、スロットルを 1/4 から 1/2 開けて再度試みます。

JAU16675

ギヤチェンジのしかた



1. ギヤの位置
2. シフトペダル

ギヤチェンジを行って発進、加速や坂道を登るときなどに必要なエンジンのパワーを調整します。
ギヤの位置は図に示すようになっています。

要　点

ニュートラル（**N**）にシフトするには、繰り返しシフトダウンして一番下の位置になったところで、わずかにシフトアップします。

JCA10262

注 意

- **シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。**
- **ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとト**

ランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。
- **クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。**

JAU16691

発進と加速のしかた

1. クラッチレバーを握ります。
2. ギヤを 1 速に入れます。
3. 少しづつスロットルを開け、ゆっくりとクラッチレバーを放して発進します。
4. 車が変速に適した速度に達したら、スロットルを閉じます。すばやく、クラッチレバーを握ります。
5. ギヤを 2 速に入れます。（ギヤがニュートラルに入らないように注意してください。）
6. 半分スロットルを開け、徐々にクラッチレバーを放します。
7. 次のギヤに変速するときは同じ手順で行ってください。

JAU16711

減速のしかた

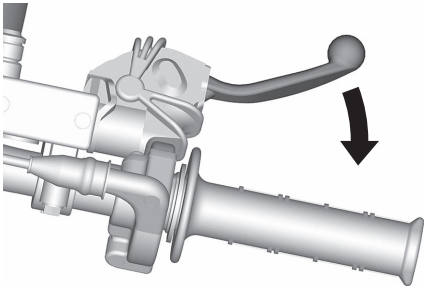
1. スロットルを完全に閉じます。フロントブレーキとリヤブレーキを同時に徐々にかけます。
2. 順にシフトダウンして行き、車両が停止したらギヤをニュートラルに入れます。

JAU85360

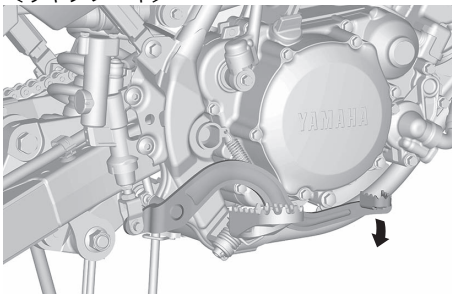
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

＜フロントブレーキ＞



＜リヤブレーキ＞



JWA11573

警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**

JAU17192

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、フューエルコックを OFF にします。

JWA10312

警 告

- **エンジンとエキゾーストシステムは非常に高温になることがあるので、歩行者や子供がそれらに触れないような場所に駐車してください。**
- **斜面や軟弱な地面には駐車しないでください。車が転倒するおそれがあります。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**

点検整備

JAU17246

安全を保つことは所有者のつとめです。定期的な点検、調整や注油によって車の安全性と本来の性能を保つことができます。点検、調整と注油の重要なポイントについて、以下のページで説明します。
「定期点検整備項目（一般）と給油」に示した時期は、通常の走行条件での一般的な指針と考えてください。気象、地形、地理的条件や個々の使用方法によっては、整備の時期を早める必要があります。

JWA10322

警 告

点検整備を怠ったり正しく整備を行わないと、乗車中や整備中、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。整備作業について自信がない場合は、ヤマハ販売店に作業を依頼してください。

JWA15461

警 告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

JAU90301

定期点検整備項目（一般）と給油

以下の表は、一般的な点検整備および給油の目安を示しています。天候、地形、地理的条件など個々の使用状態に応じて、点検整備と給油の時期を変更する必要があることに留意してください。車の点検整備、給油の時期をいつにしたらよいかわからない場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

要　点

* 印の項目は、特殊工具、データ、技能を必要とするため、ヤマハ販売店に点検整備をご依頼ください。

NO.		項目	点検、整備内容	ならし運転後	1レースごと	3レースごと	5レースごと	必要に応じて
1	*	ピストン	• カーボンが堆積していないか、また亀裂や損傷がないか点検します。 • 清掃します。	√	√			
			• 交換します。				√	√
2	*	ピストンリング	• ピストンリング合口のすき間や、リングが損傷していないか点検します。	√	√			
			• 交換します。			√		√
3	*	ピストンピンと小端ベアリング	• ピストンピンと小端ベアリングが損傷していないか点検します。		√			
			• 交換します。					√
4	*	シリンダーヘッド	• シリンダーヘッドにカーボンが堆積していないか点検します。 • 清掃します。	√	√			
			• シリンダーヘッドガスケットの損傷を点検します。 • 必要に応じてシリンダーヘッドナットを締め付けます。	√	√			
			• シリンダーヘッドガスケットを交換します。					√
5	*	シリンダー	• シリンダーに焼き付き跡や摩耗がないか点検します。 • 清掃します。	√	√			
			• 交換します。					√

NO.		項目	点検、整備内容	ならし運転後	1 レースごと	3 レースごと	5 レースごと	必要に応じて
6	*	YPVS	• カーボンが堆積していないか、また亀裂や損傷がないか点検します。	√	√			
			• 清掃します。	√	√			
7	*	クラッチ	• クラッチハウジング、フリクションプレート、クラッチプレート、クラッチスプリングに摩耗や損傷がないか点検します。 • 調整します。	√	√			
			• 交換します。					√
8	*	トランスミッション	• トランスミッションオイルを交換します。	√			√	
			• トランスミッションに損傷がないか点検します。					√
			• ベアリングを交換します。					√
9	*	シフトフォーク、ガイドバー、シフトカム	• 全ての構成部品に摩耗や損傷がないか点検します。 • 必要に応じて交換します。					√
10	*	ローターナット（フライホイールマグネトー）	• 締め付けます。	√			√	
11	*	キックスターターシステム	• アイドルギヤに損傷がないか点検します。 • 必要に応じて交換します。					√
12	*	排気系統	• エキゾーストパイプとマフラーにカーボンが堆積していないか点検します。	√	√			
			• 清掃します。				√	
13	*	クランクシャフト	• クランクシャフトにカーボンが堆積していないか、損傷がないか点検します。				√	√
			• 清掃します。				√	√
14	*	キャブレター	• キャブレターのセッティングと、詰まりがないかを点検します。	√	√			
			• 調整、清掃します。	√	√			

NO.		項目	点検、整備内容	ならし運転後	1 レースごと	3 レースごと	5 レースごと	必要に応じて
15		スパークプラグ	• 状態を点検します。 • 清掃とギャップ調整を行います。	√	√			
			• 交換します。					√
16	*	ドライブチェーン	• チェーンの張り、たわみと状態を点検します。 • 調整し、ヤマルーブ 180 チェーンオイルまたは同等品を給油します。	√	√			
			• 交換します。					√
17	*	冷却システム	• 冷却水の量と漏れを点検します。	√	√			
			• ホースのひび割れ、損傷がないか点検します。		√			
			• ラジエターキャップスプリングの作動を点検します。					√
			• クーラントを点検します。	2 年毎				√
18	*	車体各部の締め付け	• 車体各部が正しく締め付けられているか点検します。 • 必要に応じて、増し締め、締め直しをします。	√	√			
19		エアークリーナーエレメント	• 清掃します。	√	√			
			• 交換します。					√
20	*	フレーム	• 清掃し、損傷していないか点検します。	√	√			
21	*	燃料系統	• 清掃し、漏れがないか点検します。	√		√		

NO.		項目	点検、整備内容	ならし運転後	1 レースごと	3 レースごと	5 レースごと	必要に応じて
22	*	ブレーキ	• レバーの位置とペダルの高さを点検します。 • 取り付け部に注油します。 • ブレーキディスク表面を点検します。 • ブレーキ液の量と漏れを点検します。 • ブレーキディスクボルト、キャリパーボルト、マスターシリンダーボルト、ユニオンボルトを増し締めします。	√	√			
			• ブレーキパッドを交換します。					√
			• ブレーキ液を交換します。	1 年毎				√
23	*	フロントフォーク	• 作動とオイル漏れがないかを点検します。 • 必要に応じて調整します。 • ダストシールを清掃し、ヤマハグリース B を塗布します。	√	√			
			• フォークオイルを交換します。	√			√	
			• オイルシールを交換します。					√
24	*	リヤクッション	• 作動を点検し、調整します。 • 必要に応じて締め付けます。	√	√			
			• ヤマハグリース B を注油します。			√		√ （洗車後または雨天の走行後）
25	*	ドライブチェーンローラーとサポートガイド	• 摩耗や損傷がないか点検します。 • 必要に応じて交換します。					√
26	*	リヤサスペンション	• 状態を点検し、必要に応じて締め付けます。	√	√			
			• ヤマハモリブデングリースを注油します。	√	√			
27	*	スイングアームピボットベアリング	• ベアリングのがたを点検します。 • ヤマハモリブデングリースを注油します。	√	√			

NO.		項目	点検、整備内容	ならし運転後	1 レースごと	3 レースごと	5 レースごと	必要に応じて
28	*	ステアリングヘッド	• 作動、遊びを点検し、必要であれば増し締めします。	√	√			
			• 清掃し、ヤマハグリース B を注油します。				√	
			• ベアリングを交換します。					√
29	*	タイヤとホイール	• タイヤの空気圧、ホイールの振れ、スポークの緩み、タイヤの摩耗状態を点検します。	√	√			
			• 必要に応じてスプロケットボルトを締め付けます。	√	√			
			• ホイールベアリングのがたを点検します。			√		
			• ホイールベアリングにヤマハグリース B を注油します。			√		
			• ホイールベアリングを交換します。					√
30	*	可動部、ケーブル類	• 注油します。	√	√			
31	*	スロットルグリップ	• 作動を点検します。 • スロットルグリップの遊びの量を点検し、必要に応じて調整します。 • ケーブルとスロットルハウジングに注油します。	√	√			

JAU42012

要　点

● 油圧式ブレーキの点検整備
- 定期的に点検を行い、必要に応じてブレーキ液を補充してください。
- マスターシリンダーとキャリパー内のパーツ、およびブレーキ液は 2 年毎に交換してください。
- ブレーキホースは 4 年毎、または亀裂や損傷がある場合は交換してください。

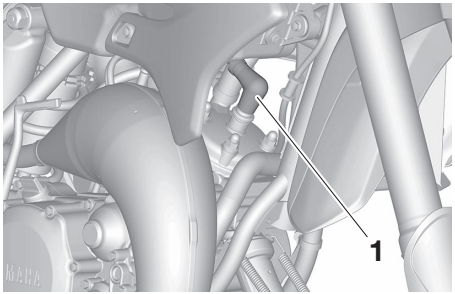
JAU84450

スパークプラグの点検

スパークプラグはエンジンの重要な部品のひとつで、簡単に点検することができます。熱や堆積物により、どんなスパークプラグでも徐々に腐食が進むため、スパークプラグは必ず「定期点検整備項目（一般）と給油」に従って取り外し、点検してください。また、スパークプラグの状態によって、エンジンの状態がわかることもあります。

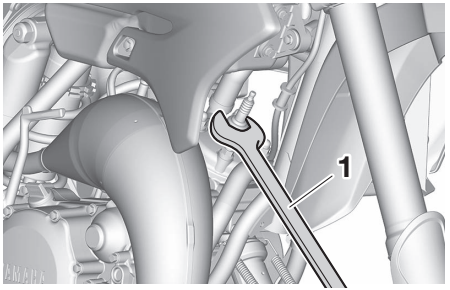
スパークプラグの取り外しかた

1. スパークプラグキャップを取り外します。



1. スパークプラグキャップ

2. 図のようにスパークプラグを取り外します。スパークプラグレンチはお買いあげのヤマハ販売店でお求めになれます。



1. スパークプラグレンチ

スパークプラグの点検のしかた

1. スパークプラグの中心電極の周りのガイシが淡いキツネ色になっているかを点検します。（淡いキツネ色に焼けているのが理想です。）

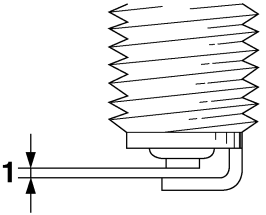
要　点

スパークプラグが明らかに違う色を示している場合は、エンジンが適正に運転されていない可能性があります。このようなときはご自分で判断を行わずにヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

2. スパークプラグを調べて電極の腐食や過度のカーボン、その他の堆積物がないかを確認し、必要に応じてスパークプラグを交換します。

指定スパークプラグ：
NGK/BR10EG

3. シックネスゲージでスパークプラグのギャップを測定し、必要に応じて規定値に合うようにギャップを調整します。



1. プラグギャップ

スパークプラグギャップ：
0.5–0.6 mm

スパークプラグの取り付けかた

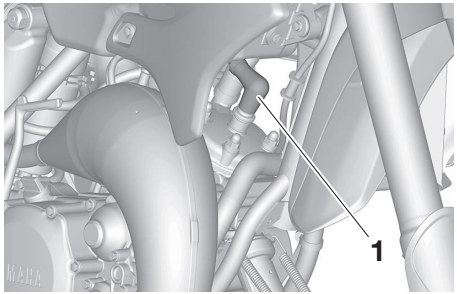
1. スパークプラグガスケットの表面と、その合わせ面を清掃し、スパークプラグのねじ山に汚れがあればふき取ります。
2. スパークプラグレンチを使ってスパークプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
スパークプラグ：
20 N·m (2.0 kgf·m)

要　点

トルクレンチが利用できない場合は、スパークプラグを指で締め付け、さらにレンチで1/4から 1/2 回転させてください。ほぼ正しい締め付けトルクになります。しかし、できるだけ早く規定の締め付けトルクで締め付けてください。

3. 図のようにスパークプラグキャップを取り付けます。



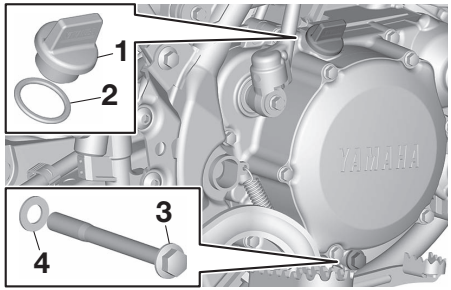
1. スパークプラグキャップ

JAU4144C

トランスミッションオイル

トランスミッションオイルの漏れがないか、走行するごとに点検してください。もし漏れがあった場合は、ヤマハ販売店に点検整備を依頼してください。また、トランスミッションオイルは「定期点検整備項目（一般）と給油」に従って定期的に交換してください。

1. エンジンを始動し、数分間運転してから停止します。
2. 車を平坦なところで垂直に立てます。
3. 使用済みのオイルを回収するため、トランスミッションの下にオイルトレーを置きます。
4. オイル注入口のキャップと O リングを取り外したあと、トランスミッションオイルドレンボルトとガスケットを取り外し、トランスミッションからオイルを抜き取ります。



1. オイル注入口キャップ
2. O リング
3. トランスミッションオイルドレンボルト
4. ガスケット

5. 新品のガスケットを使用してトランスミッションオイルドレンボルトを取り付け、規定トルクで締め付けます。

締め付けトルク：
トランスミッションオイルドレンボルト：
10 N·m (1.0 kgf·m)

6. 規定量の推奨トランスミッションオイルを注入します。

推奨オイル：
ヤマルーブ　ギヤオイル
オイル容量：
0.50 L

JCA10453

注 意

- **クラッチの滑りを防ぐため（トランスミッションオイルにはクラッチの潤滑作用もあるため）、いかなる化学添加剤も混ぜないでください。ディーゼル車用の CD 級オイルや、指定よりも高いグレードのオイルは使わないでください。また、ENERGY CONSERVING II 以上のラベルのついたオイルは使わないでください。**
- **トランスミッションに異物が入らないように注意してください。**

7. O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。

8. オイル注入口のキャップと O リングを取り付けてしっかりと締めます。
9. エンジンを始動し、数分間運転してトランスミッションオイルの漏れがないかを点検します。もし、漏れていたらエンジンをただちに停止し、原因を調べてください。

JAU20071

冷却水

JAUM1296

冷却水量の点検

要　点

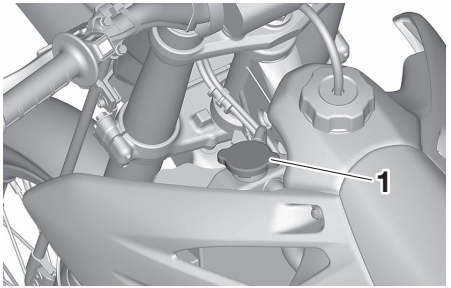
- 冷却水量はエンジンの温度によって変化するため、点検はエンジンが冷えているときに行ってください。
- 冷却水量を点検するときは、車が垂直に立てられていることを確認してください。傾いていると正しく読み取れません。

1. 車を平坦なところで垂直に立てます。
2. ラジエターキャップを取り外し、ラジエター内の冷却水量を点検します。

JWA10382

警 告

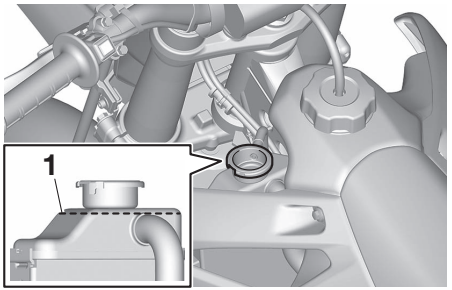
エンジンが高温になっているときには、決してラジエターキャップを開けないでください。



1. ラジエターキャップ

要　点

冷却水は規定クーラントレベルまでなければなりません。冷却水量はエンジンの温度によって変化します。



1. 規定クーラントレベル

3. 冷却水量がこのレベルより低い場合、冷却水を補充し、ラジエターキャップを取り付けます。

JCA10473

注 意

- **クーラントが入手できない場合は、蒸留水か水道水（軟水）を代用してください。硬水や塩水はエンジンを傷めますので使用しないでください。**
- **クーラントの代わりに水を使用した場合は、できるだけ早くクーラントと交換してください。水のままですと、冷却装置が凍結や腐食から保護されないことになります。**
- **クーラントに水を加えた場合は、できるだけ早くヤマハ販売店でクーラントの不凍液含有量を確認してください。放置すると不凍効果が低下することになります。**

要 点

エンジンがオーバーヒートした場合、7-29ページの説明を参照してください。

JAUM1318

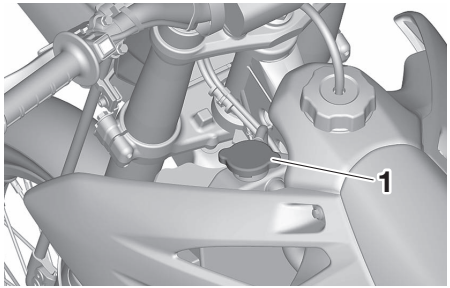
冷却水の交換

1. 車を平坦なところで垂直に立て、必要に応じてエンジンを冷まします。
2. 使用済みの冷却水を回収するため、エンジンの下にトレーを置きます。
3. ラジエターキャップ、冷却水ドレンボルトとガスケットを取り外し、冷却水を排出します。

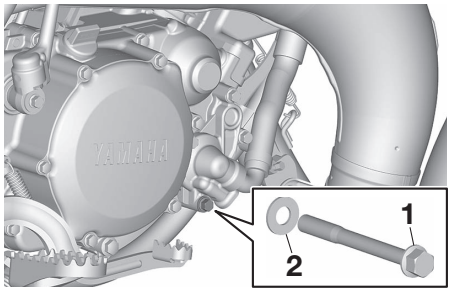
JWA10382

警 告

エンジンが高温になっているときには、決してラジエターキャップを開けないでください。



1. ラジエターキャップ



1. 冷却水ドレンボルト
2. ガスケット

4. 冷却水が完全に排出されたら、冷却系統をきれいな水道水で洗います。
5. 新品のガスケットを使用してドレンボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ドレンボルト：
10 N·m (1.0 kgf·m)

6. 冷却水をラジエターに、いっぱいまで注入します。

不凍液／水道水の混合比：
1:1
推奨不凍液：
ヤマルーブ ロングライフクーラント
冷却水量：
ラジエター（全水路）：
0.50 L

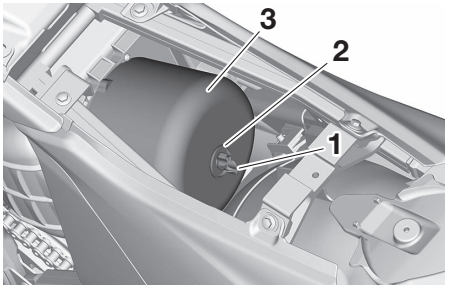
7. ラジエターキャップを取り付け、エンジンを始動し、数分間運転して止めます。
8. ラジエターキャップを取り外して、ラジエター内の冷却水量を点検します。必要に応じて冷却水を規定クーラントレベルまで補充し、ラジエターキャップを取り付けます。
9. エンジンを始動し、冷却水の漏れがないかを点検します。もし、冷却水が漏れていたらヤマハ販売店で冷却系統の点検を受けてください。

JAU48394

エアクリーナーエレメントの清掃

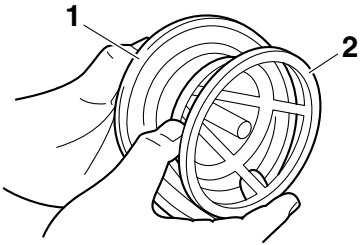
エアクリーナーエレメントは「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に点検整備を行ってください。ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、指定の時期より早めにエアクリーナーエレメントを清掃または必要に応じて交換してください。

1. シートを取り外します。（4-7 ページ参照）
2. ウイングボルトとワッシャーを外し、エアクリーナーエレメントを取り外します。



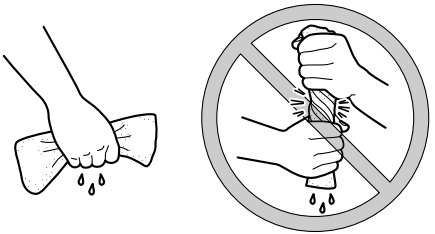
1. ウイングボルト
2. ワッシャー
3. エアクリーナーエレメント

3. エアクリーナーエレメントフレームからエアクリーナーエレメントを取り外します。



1. エアクリーナーエレメント
2. エアクリーナーエレメントフレーム

4. エアクリーナーエレメントをきれいな灯油で洗浄して軽くしぼります。



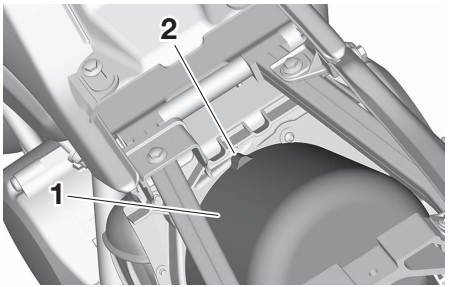
5. ヤマルーブフィルターオイルをエアクリーナーエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。

要　点

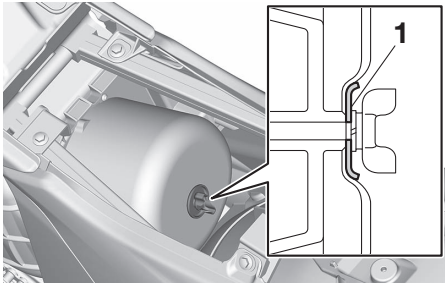
エアクリーナーエレメントは湿った状態にしますが、たれる程にはしないでください。

指定オイル：
ヤマルーブフィルターオイル

6. エアクリーナーエレメントをエレメントフレームにかぶせます。
7. エアクリーナーエレメントを突起部が上になるようにエアクリーナーケースに取り付け、ワッシャー、ウイングボルトを取り付けます。



1. エアクリーナーエレメント
2. 突起



1. ワッシャー

JCA16692

注 意

- **エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。**
- **エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。これを行うと、ピストンやシリンダーの摩耗が激しくなります。**
- **ワッシャーの組付方向は図のようになります。ワッシャーの向きに注意して組み付けてください。**

8. シートを取り付けます。

JAU42111

キャブレターの調整

キャブレターはエンジンの重要な部品で、非常に高度な調整が要求されます。キャブレターの調整はヤマハ販売店で行ってください。ただし、以下に示す調整は日常の整備のひとつとしてユーザーでも調整できます。

JCA10551

注 意

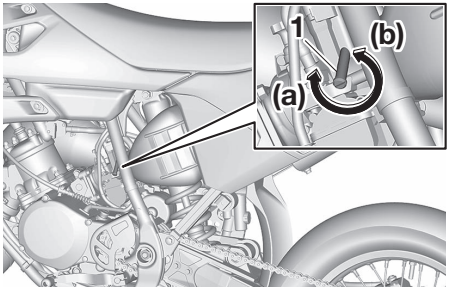
キャブレターは工場で調整され、広範囲にテストを受けています。技術的な知識がない人がセッティングを変更すると、エンジン性能が低下したり、エンジンを損傷することがあります。

JAU44391

エンジンアイドリング回転数の調整

エンジンアイドリング回転数は、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

1. エンジンを始動し、完全に暖まるまで運転します。
2. スロットルストップスクリューを回して、可能な限り低いエンジン回転数にします。
3. エンジン回転数を上げるにはスクリューを (a) 方向に回します。エンジン回転数を下げるにはスクリューを (b) 方向に回します。

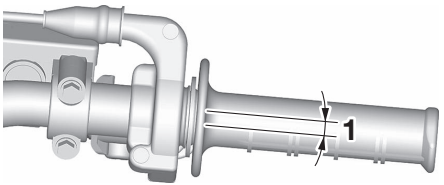


1. スロットルストップスクリュー

JAU48434

スロットルグリップの遊びの調整

スロットルグリップの遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



1. スロットルグリップの遊び

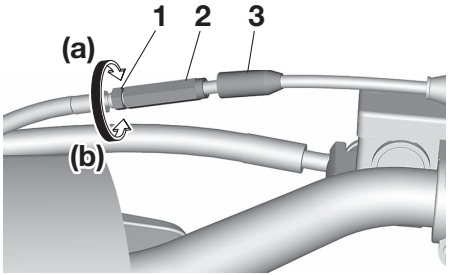
スロットルグリップの遊び：
3.0–6.0 mm

スロットルグリップの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

要　点

スロットルグリップの遊びを調整する前に、エンジンのアイドリング回転数の調整を正確に行う必要があります。

1. ゴムカバーをずらします。
2. ロックナットをゆるめます。
3. スロットルグリップの遊びを増やすときはアジャスターを (a) 方向に、スロットルグリップの遊びを減らすときはアジャスターを (b) 方向に回します。



1. ロックナット
2. アジャスター
3. ゴムカバー

4. ロックナットを締め付け、ゴムカバーを元の位置に戻します。

JAU65042

タイヤ

車の性能と耐久性を最大限に引き出しながら安全に乗っていただくために、指定のタイヤについて以下の点に注意してください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧は乗車前に毎回点検して、必要に応じて調整してください。

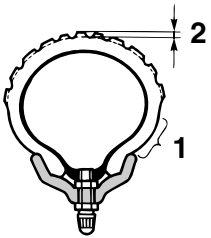
JWA14382

警　告

- **空気圧の確認は、タイヤが冷えている状態で（タイヤの温度と外気温が同じときに）行ってください。**
- **タイヤ空気圧は運転者の体重、走行速度と走行状況を考慮して調整してください。**

タイヤ空気圧：
前輪：
100 kPa (1.00 kgf/cm^2)
後輪：
100 kPa (1.00 kgf/cm^2)

タイヤの点検



1. サイドウォール
2. 溝の深さ

タイヤは乗車前に毎回点検してください。

JCA15582

注 意

- **ビードストッパーはきちんと締め付けてください。ビードストッパーがゆるんでいるとタイヤの空気圧が低いときにタイヤがリムから外れるおそれがあります。**
- **バルブステムが直立になるようにしてください。バルブステムが傾いているのはタイヤがリムの元の位置からずれていることを示しています。タイヤを動かしてバルブステムが直立するようにしてください。**

タイヤ中央の溝の深さが使用限度に達していたり、釘やガラスの破片が刺さっていたり、あるいはサイドウォールに異常がある場合は、ヤマハ販売店で点検整備を受けてください。

タイヤの溝の深さの使用限度：
4.0 mm

タイヤの情報

この車はチューブタイヤを装備しています。

JWA10462

警 告

- **前後輪ともに同じメーカー、同じデザインのタイヤを使用してください。そうしなかった際のハンドリングの特性について、一切保証しません。**
- **ヤマハが、長期試験を経てこのモデル用に認定したタイヤは、下記のリストのものです。**

前輪：
サイズ：
70/100-17 40M (YZ85)
70/100-19 42M (YZ85LW)
メーカー／型式：
DUNLOP/MX3SF

後輪：
サイズ：
90/100-14 49M (YZ85)
90/100-16 52M (YZ85LW)
メーカー／型式：
DUNLOP/MX3S

JWA14391

警 告

- **過度にすり減ったタイヤはヤマハ販売店で交換してください。過度にすり減ったタイヤで運転すると操縦安定性が低下し、制御不能になるおそれがあります。**
- **タイヤを含め、ホイールやブレーキ関連の部品交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAU48322

スポークホイール

JWA10611

警 告

このモデルのホイールは、チューブレスタイヤ用に設計されておりません。チューブレスタイヤは使用しないでください。

バイクの性能と耐久性を最大限に引き出しながら、永く、安全に乗っていただくために、指定ホイールに関する以下のポイントに注意してください。

- ホイールのリムにひびや曲がり、歪みやスポークのゆるみ、損傷がないか、乗車前に毎回点検してください。損傷があった場合、ヤマハ販売店でホイールを交換してください。ホイールに関してはたとえ小さな修理であっても行わないでください。変形したり、ひびが入っているホイールは必ず交換してください。
- タイヤかホイールのどちらかを交換したら、必ずホイールのバランス取りを行ってください。ホイールのバランスが取れていないと、性能の低下やハンドリング特性の悪化、タイヤの寿命が縮まるおそれがあります。

JAU46081

アクセサリーと交換部品

JWA14482

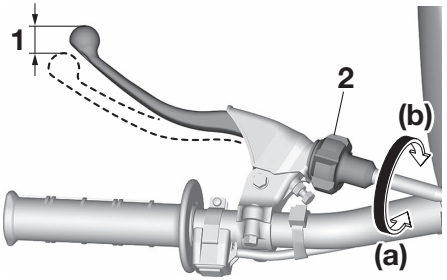
警 告

アクセサリーや交換部品は、この車用に設計されたものでなければなりません。また、設計上の本来の安定性が維持されるよう、確実に装着されなければなりません。ヤマハ純正部品とアクセサリーは、あなたのお車に合うよう設計され、テストされています。ご購入前にヤマハ純正部品とアクセサリーのことを考慮に入れてください。ヤマハが認可していないアクセサリーや交換部品の使用は、操縦安定性や安全運転に支障があることもあります。ヤマハは他社製のアクセサリーや部品の品質について管理できませんので、ヤマハが認可していない部品の使用によって起きるあらゆる結果に対しては責任を負いかねます。

JAU65775

クラッチレバーの遊びの調整

クラッチレバーの遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



1. 遊び
2. アジャスター

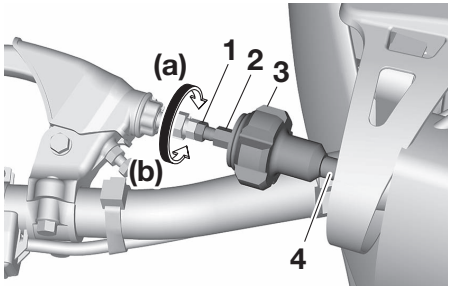
クラッチレバーの遊び :
7.0–12.0 mm

クラッチレバーの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。
クラッチレバーの遊びを増やしたいときは、アジャスターを (a) 方向に回します。クラッチレバーの遊びを減らしたいときは、アジャスターを (b) 方向に回します。

要 点

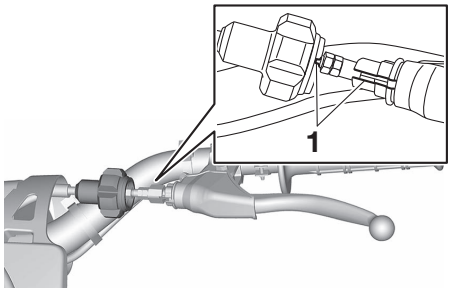
上記の調整でクラッチレバーの遊びが適正にならなかった場合は、以下の手順で調整を行ってください。

1. クラッチレバー部のアジャスターを (a) 方向にいっぱいまで回して、クラッチケーブルをゆるめます。
2. ゴムカバーとクラッチレバー部のアジャスターをずらし、ロックナットをゆるめます。
3. クラッチレバーの遊びを増やしたいときは、クラッチケーブル部のアジャスターを (a) 方向に回します。クラッチレバーの遊びを減らしたいときは、クラッチケーブル部のアジャスターを (b) 方向に回します。



1. ロックナット
2. アジャスター
3. ゴムカバー

4. ロックナットを締め付けます。
5. クラッチレバー部のアジャスターとゴムカバーを元の位置に戻します。このとき、アジャスターの溝と調整ボルトの溝を合わせて取り付けます。

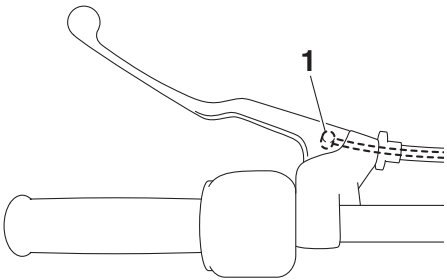


1. 溝

JCA12092

注 意

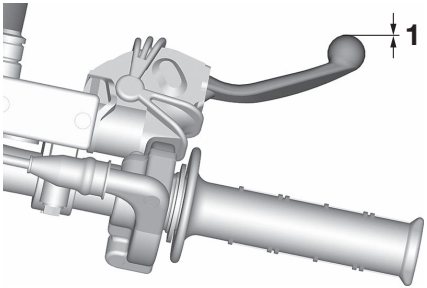
- **調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。**
- **1 か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。**



1. ケーブル取り付け部

JAU37914

ブレーキレバーの遊びの点検



1. 遊び 0 mm

ブレーキレバーの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA14212

警 告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、ブレーキ油圧システムの中に空気が混入しているおそれがあります。ブレーキ油圧システムの中に空気が混入した場合は、ヤマハ販売店でエア抜きを行ってください。ブレーキ油圧システムの中に空気が混入すると、ブレーキの性能を低下させ事故の原因となります。

JAU44821

シフトペダルの点検

シフトペダルがスムーズに動くか、乗車前に毎回点検してください。スムーズに動かない場合は、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

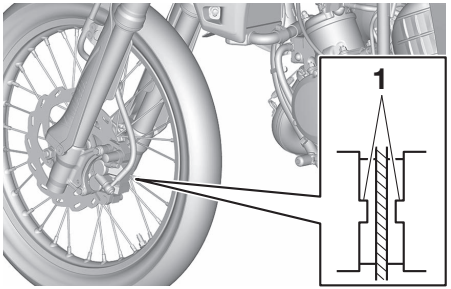
JAU22393

フロントおよびリヤブレーキパッドの点検

フロントおよびリヤブレーキパッドは「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に摩耗の点検を行ってください。

JAU22411

フロントブレーキパッドの点検

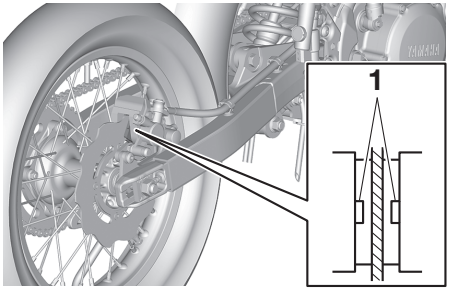


1. ウェアインジケーター

フロントブレーキパッドはウェアインジケーターを備えており、ブレーキを分解しなくてもブレーキパッドの摩耗を確認することができます。ブレーキパッドの摩耗を確認するには、ブレーキをいっぱいに作動させてインジケーターの示す位置を点検します。インジケーターがブレーキディスクに達したらブレーキパッドの使用限度です。ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

JAU46292

リヤブレーキパッドの点検



1. インジケーター溝

リヤブレーキパッドはインジケーター溝を備えており、ブレーキを分解しなくてもブレーキパッドの摩耗を確認することができます。ブレーキパッドの摩耗を確認するには、インジケーター溝を点検します。インジケーター溝がブレーキディスクに接しているように見えたらブレーキパッドの使用限度です。ヤマハ販売店で、ブレーキパッドをセットで交換してください。

JAU22584

ブレーキ液量の点検

乗車する前に、ブレーキ液がロアレベルより上にあることを確認します。

要　点

リザーバータンクの上面が水平になるようにして、ブレーキ液量を点検してください。

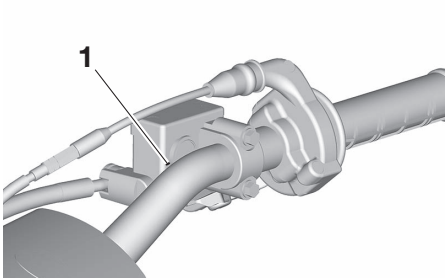
指定ブレーキ液：
BF-4 (DOT-4)

JCA17641

注 意

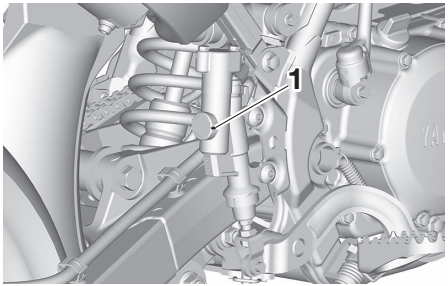
ブレーキ液は塗装面やプラスチック部品を損傷させることがあります。液がこぼれたら必ず、すぐにふき取ってください。

＜フロントブレーキ＞



1. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. ロアレベル

ブレーキパッドの摩耗と共にブレーキ液量は徐々に下がってきますが、正常なことです。

- ブレーキ液量が少ないときは、ブレーキパッドの摩耗やブレーキ系統に液漏れが起きていることがあります。
- ブレーキ液量が急激に下がった場合は、乗車する前にヤマハ販売店に点検を依頼してください。

JWA15991

警 告

適切な点検・整備を行わないと、ブレーキ性能が低下する可能性があります。以下の注意事項を守ってください：

- **ブレーキ液が不足したまま使用しないでください。ブレーキ系統に空気が入り、ブレーキ性能の低下につながるおそれがあります。**
- **キャップを取り外す前に、キャップのまわりをきれいにしてください。密閉容器に入った BF-4 (DOT-4) ブレーキ液のみを使用してください。**
- **指定ブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用すると、シール類が劣化し、液漏れを起こすことがあります。**
- **ブレーキ液は同じ種類のものを使用してください。BF-4 (DOT-4) 以外のブレーキ液を使用すると、有害な化学反応を起こす可能性があります。**
- **ブレーキ液を補充するときは、ブレーキリザーバータンクに水が入らないように注意してください。水が入るとブレーキ液の沸点が大幅に下がり、ベーパーロックを起こすことがあります。**

JAU51721

ブレーキ液の交換

「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にヤマハ販売店でブレーキ液の交換を行ってください。また、ブレーキマスターシリンダーとキャリパーのオイルシールならびにブレーキホースは下に示す時期または損傷や漏れを発見したら交換してください。

- オイルシール：2 年毎に交換します。
- ブレーキホース：4 年毎に交換します。

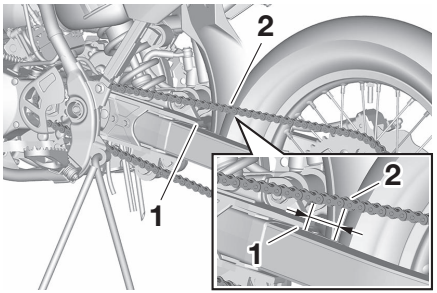
JAU22762

ドライブチェーン

JAU98090

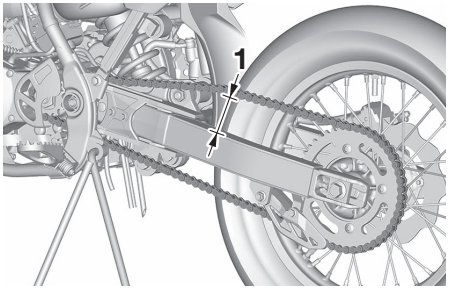
ドライブチェーンの点検

1. エンジンの下に適当なスタンドを置きます。（7-25 ページ参照）
2. リヤホイールが浮いていて、リヤクッションが伸びきった状態になっていることを確認します。
3. ギヤをニュートラルに入れます。
4. 図のように、ドライブチェーンガードの端から後方へ 55 mm を測定し、チェーンの中間位置（ポイント B）を見つけます。



1. ドライブチェーンガード端
2. ポイント B

5. ドライブチェーンの中間位置（ポイント B）を手で上限まで持ち上げ、リヤアーム上面からチェーン下端までのセット長 A が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。



1. セット長 A

セット長 A：
58.0–68.0 mm (YZ85)
65.0–75.0 mm (YZ85LW)

6. タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。
7. 点検の結果、調整が必要な場合は、以下の手順で調整を行ってください。

JCA10572

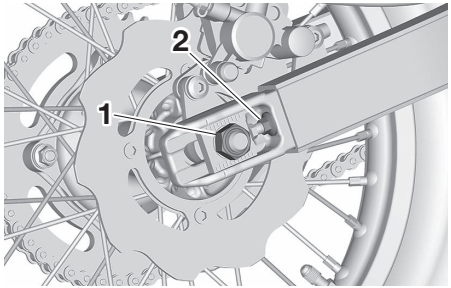
注 意

ドライブチェーンの遊びが正しく調整されていないとエンジンなどの重要な部品に過負荷が発生し、チェーンの滑りや破損が生じるおそれがあります。これらを予防するため、ドライブチェーンのたわみ量は規定の量に保つようにしてください。

JAU84060

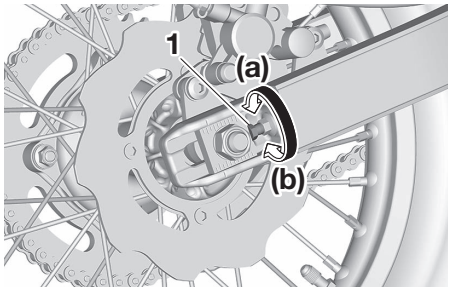
チェーンの張り調整

1. アクスルナットと左右のロックナットをゆるめます。



1. アクスルナット
2. ロックナット

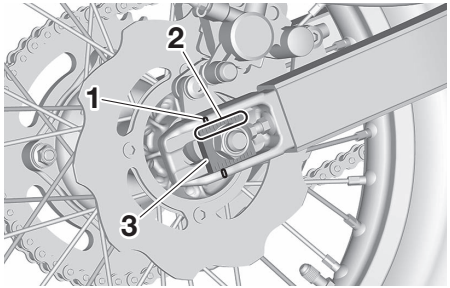
2. チェーンを張るにはアジャスターを (a)方向に回します。チェーンをゆるめるにはアジャスターを(b)方向に回し、ホイールを前方に押します。



1. アジャスター

要　点

チェーンプラーの刻み目盛りをスイングアームのノッチに合わせて、左右を同じ位置にします。



1. ノッチ
2. 刻み目盛り
3. チェーンプラー

3. 調整後、両方のロックナットおよびアクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
21 N·m (2.1 kgf·m)
アクスルナット：
80 N·m (8.0 kgf·m)

4. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23018

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながらチェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを、柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブスーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JAU54121

ケーブルの点検と注油

すべてのコントロールケーブルの作動の状態を乗車前に毎回点検し、必要に応じてケーブルとケーブルのエンド部に注油します。ケーブルが損傷していてスムーズに動かない場合は、ヤマハ販売店に点検整備を依頼してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマルーブ 180 ワイヤーグリース

JWA10712

警 告

ケーブルのアウターハウジングに損傷があると錆が発生し、ケーブルの作動を妨げる原因となります。危険な状態を防止するため、損傷を受けたケーブルはできるだけ早く交換してください。

JAU23115

スロットルグリップおよびケーブルの点検と注油

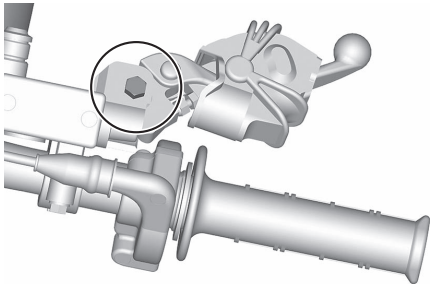
スロットルグリップの作動は、乗車前に毎回点検してください。また、ケーブルは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期になったら、ヤマハ販売店に注油を依頼してください。
スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられています。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JAU23144

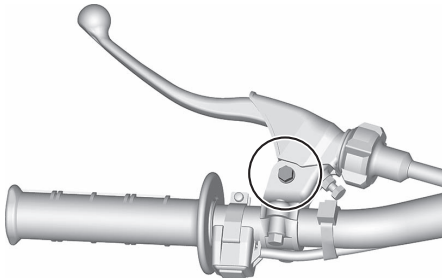
ブレーキおよびクラッチレバーの点検と注油

ブレーキとクラッチレバーの作動は乗車前に毎回点検し、必要に応じてレバーの支点に注油してください。

<ブレーキレバー>



<クラッチレバー>

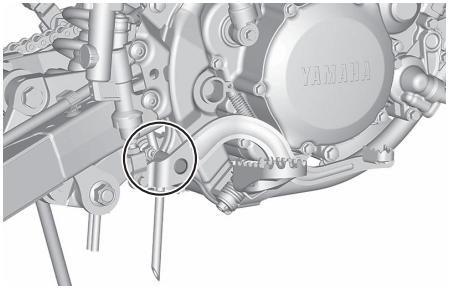


推奨する潤滑剤
ブレーキレバー：
シリコングリース G30M
クラッチレバー：
ヤマハグリース B

JAU23185

ブレーキペダルの点検と注油

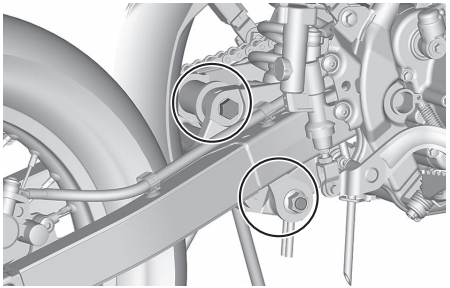
ブレーキペダルの作動は乗車毎に点検し、必要に応じてペダルの取り付け部に注油します。



推奨する潤滑剤：
ヤマハグリース B

JAU85250

リヤサスペンションの注油

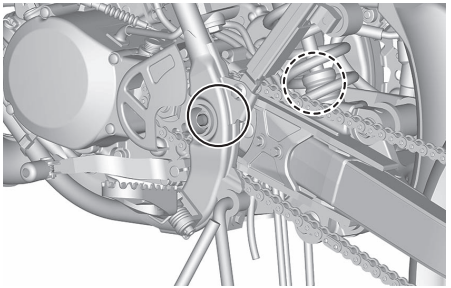


リヤサスペンションの取り付け部は、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定された時期になったら、ヤマハ販売店に注油を依頼してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハモリブデングリース

JAUM2703

スイングアームピボットの注油



スイングアームピボットは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期になったら、ヤマハ販売店に注油を依頼してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハモリブデングリース

JAU23273

フロントフォークの点検

フロントフォークの状態と作動は、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に、次の手順で点検してください。

外観の点検

JWA10752

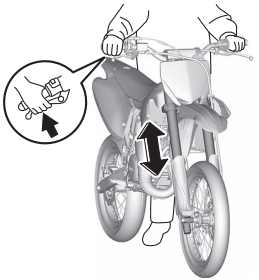
警 告

車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

インナーチューブにかき傷や損傷、過度のオイル漏れがないか点検します。

作動の点検

1. 車体を平坦な場所に立て、直立した状態に保ちます。
2. フロントブレーキをかけながらハンドルを数回強く押し下げて、フォークがスムーズに伸縮し、弾力があるか確認します。



JCA10591

注 意

何らかの損傷が見られたり、フロントフォークがスムーズに作動しない場合は、ヤマハ販売店に点検、修理を依頼してください。

JAU23285

ステアリングの点検

ステアリングのベアリングが摩耗していたり緩んでいたりすると、大変危険です。したがって、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にステアリングの作動性を点検してください。

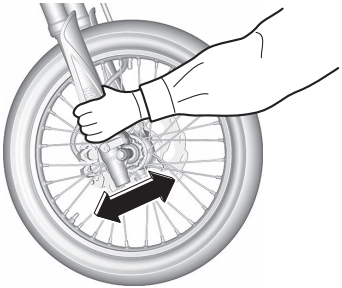
1. 前輪を浮かせます。（7-25 ページ参照）

JWA10752

警 告

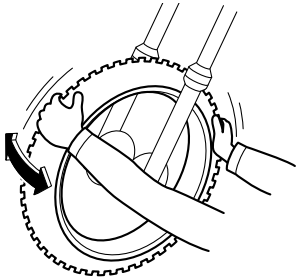
車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

2. フロントフォークの先端をつかんで、前後に動かし、異常なガタつきがある場合は、ヤマハ販売店にステアリングの点検、修理を依頼してください。



JAU23292

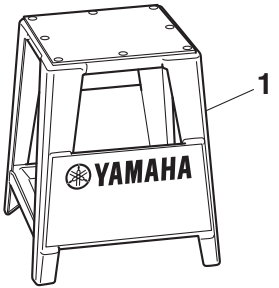
ホイールベアリングの点検



フロントおよびリヤのホイールベアリングは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に従って注油してください。ホイールハブに遊びがあったり、ホイールがスムーズに回転しない場合は、ヤマハ販売店でホイールベアリングの点検整備を受けてください。

JAU75190

車体の支持



1. メンテナンススタンド（オフロードモデル用）

このモデルはメインスタンドを装備していませんので、フロントホイールやリヤホイールの取り外し、ドライブチェーンの点検調整、洗車などを行う際にはメンテナンススタンドを使用してください。点検整備を行う前に、平坦な場所で車が垂直であることを確認してください。

要　点

メンテナンススタンドがない場合は、代わりに頑丈な木箱を使用できます。

JAU24361

フロントホイール

JAU56372

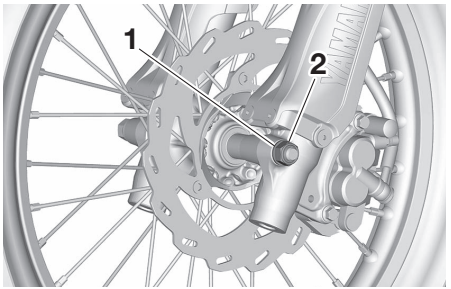
フロントホイールの取り外しかた

JWA10822

警 告

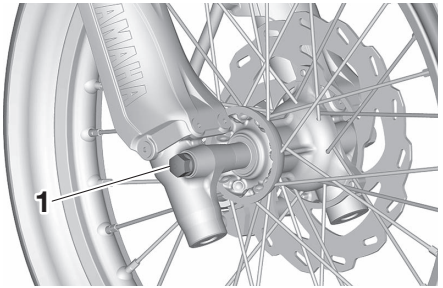
- **ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。**
- **車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。**

1. アクスルナットをゆるめます。



1. ワッシャー
2. アクスルナット

2. エンジンの下に適当なスタンドを置きます。（7-25 ページ参照）
3. アクスルナットとワッシャーを取り外します。
4. ホイールアクスルを引き抜きます。



1. ホイールアクスル

5. フロントホイールを取り外します。

JCA11073

注 意

ホイールを取り外した状態で、ブレーキをかけないでください。ブレーキパッドが閉じてしまいます。

フロントホイールの取り付けかた

1. ホイールを取り付ける前に、ブレーキパッドの間にすき間が充分あることを確認してください。
2. フロントフォークの間にホイールを入れて持ち上げます。
3. ホイールアクスルを右側から差し込みます。
4. ワッシャーとアクスルナットを取り付けます。
5. アクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
アクスルナット：
70 N·m (7.0 kgf·m)

JAU25081

リヤホイール

JAU84051

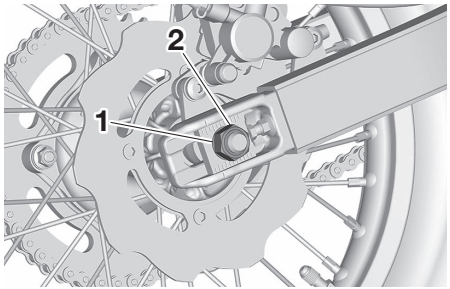
リヤホイールの取り外しかた

JWA10822

警 告

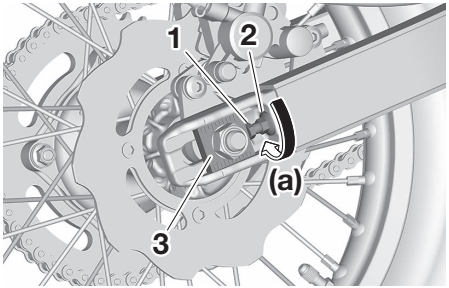
- **ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。**
- **車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。**

1. アクスルナットをゆるめます。



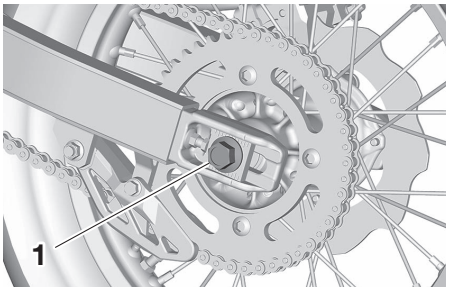
1. ワッシャー
2. アクスルナット

2. エンジンの下に適当なスタンドを置きます。（7-25 ページ参照）
3. ロックナットをゆるめ、アジャスターを（a）方向にゆるめます。反対側も同様にゆるめます。



1. アジャスター
2. ロックナット
3. チェーンプラー

4. アクスルナットとワッシャーを取り外します。
5. ホイールを前方に押して、チェーンをリヤスプロケットから取り外します。



1. ホイールアクスル

6. ブレーキキャリパーブラケットを保持したまま、ホイールアクスルを外します。

要　点

- ホイールアクスルの取り外しには部品が損傷しないようにソフトハンマーを使用することをおすすめします。
- ホイールアクスルを取り外すとき、チェーンプラーが落下することがあります。

7. ホイールを取り外します。

JCA11073

注 意

ホイールを取り外した状態で、ブレーキをかけないでください。ブレーキパッドが閉じてしまいます。

要　点

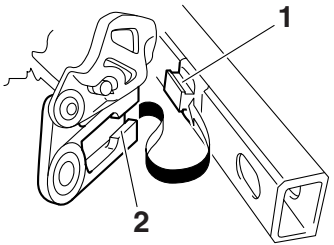
- ドライブチェーンが取り外しにくいときは、まずホイールアクスルを取り外してください。
- 取り付けやすくするには、ドライブチェーンをスイングアームの上にのせます。

リヤホイールの取り付けかた

1. ホイールを取り付ける前に、ブレーキパッドの間にすき間が充分あることを確認してください。
2. ブレーキキャリパーブラケットとチェーンプラーを取り付け、左側からホイールアクスルを差し込み、ホイールを取り付けます。

要　点

ブレーキキャリパーブラケットの溝を、スイングアームのリテーナーに合わせて組み付けてください。



1. リテーナー
2. 溝

3. チェーンをスプロケットに組み付けます。
4. ワッシャーとアクスルナットを取り付けます。
5. チェーンの張り調整を行います。（7-19ページ参照）

JAU25872

こんなときは

ヤマハ車は工場から出荷前に入念に点検されていますが、使用中にトラブルが発生することがあります。燃料、圧縮、イグニッションシステムのトラブルは始動不良やパワーの低下を引き起こす原因となります。
次ページのトラブルシューティングチャートには、これらの重要なシステムをご自身で点検するための手軽な手順が記載されています。点検して、修理の必要がある場合にはヤマハ販売店に車両を持ち込んでください。専用の工具を使って経験、知識の豊富な整備士が適切に修理を行います。
部品を交換するときは、必ずヤマハ純正部品を使用してください。類似部品は、ヤマハ純正部品と似ていますが、しばしば性能で劣ることがあり、長持ちしないため、結局、修理費用が高くつくことがあります。

JAU41495

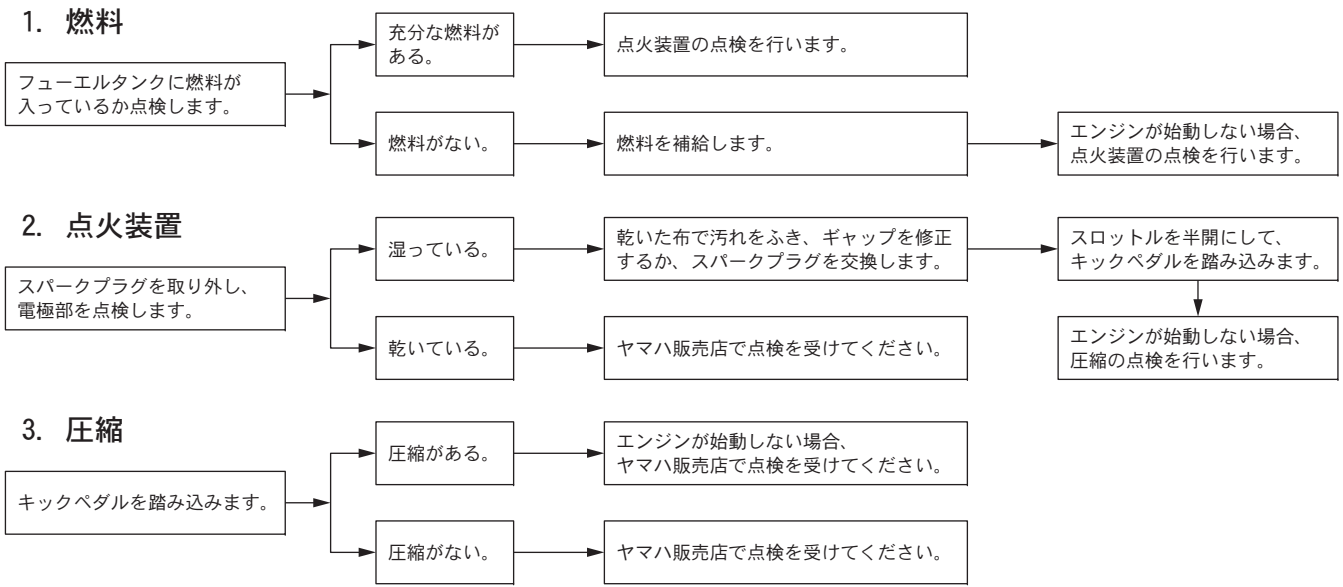
トラブルシューティングチャート

始動不良またはエンジン性能の低下

JWA10841

警 告

燃料系統は、必ずタバコなどの火気がないところで点検作業してください。

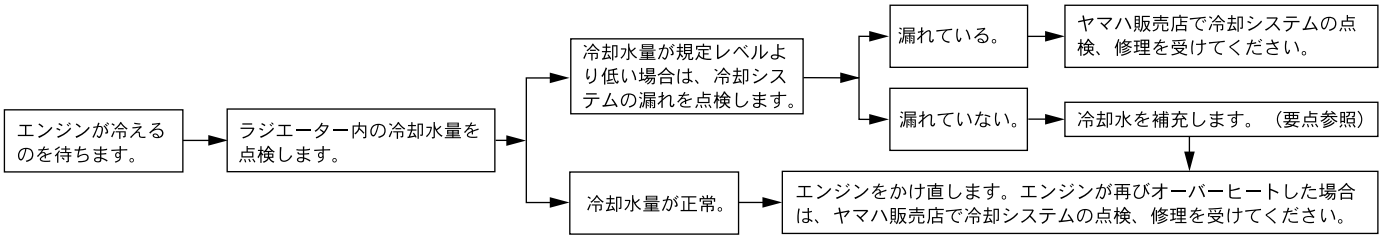


エンジンオーバーヒート

JWAT1041

警 告

- **エンジンおよびラジエターが冷えるまでラジエターキャップを外さないでください。高温の冷却水や蒸気が勢いよく吹き出し、重傷を負うおそれがあります。ラジエターキャップを取り外すときは、エンジンが冷えるのを待ちます。**
- **タオルなどの厚手の布をラジエターキャップにかぶせ、キャップをもどり止めまで反時計方向にゆっくり回します。このようにして、内部の圧力を徐々に抜きます。そして、シューシューという音がしなくなったら、キャップを押しながら反時計方向に回し、取り外します。**



要　点

推奨クーラントの入手が困難な場合は、水道水を一時的に入れておき、できるだけ早めに推奨クーラントに入れ替えてください。

JAU41359

お車の手入れ

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。すみずみまで清掃すれば、普段気付かない異状箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

清掃前

1. エンジンが冷えた後、マフラー出口をビニール袋で覆います。
2. スパークプラグキャップを含む全ての電装カプラーやコネクター、およびキャップやカバーが正しく取り付けられていることを確認します。
3. クランクケース上の焼き付いたオイルのような落ちにくい汚れは、脱脂剤とブラシで取ってください。ただし、脱脂剤をシール、ガスケット、スプロケット、ドライブチェーン、ホイールアクスルには決して使わないでください。汚れと脱脂剤は水で洗い落としてください。

清掃

JCA17692

注 意

- **強酸性のホイールクリーナーの使用（特にスポークホイールへの使用）は避けてください。落ちにくい泥汚れを落とすのにこのような製品を使用する場合は、クリーナーの使用説明書で指示された時間以上は決して放置しないでください。また水で完全に洗い流したあと、すぐに乾かし、防錆潤滑剤を塗布してください。**
- **カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。**
- **コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部品を傷つけますので使用しないでください。強力洗剤、研磨剤、溶剤、シンナー、燃料（ガソリン）、錆取り剤、錆止め剤、ブレーキフルード、不凍液、バッテリー液などの付着した布やスポンジは使用しないでください。**
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、以下の部分の故障の原因となります。：シール類（ホイールやスイングアームのベアリング、フロントフォーク、ブレーキ）、電装品（カプラー、コネクター、スイッチ）、ブリーザーホース、ベントホース**

通常の使用後

汚れをぬるま湯、中性洗剤、清潔で柔らかなスポンジで落としてください。その後、きれいな水で完全に洗い流してください。手の届きにくい箇所は、歯ブラシあるいは細めの毛ブラシを使用してください。落ちにくい汚れや虫の死骸などは、清掃前に濡れた布を２～３分間かぶせておくと落ちやすくなります。

雨天、あるいは海辺での走行後

海水に含まれる塩分は腐食性が高いため、雨天あるいは海辺での走行をする度に以下の手順で清掃を行なってください。

1. エンジンが冷えた後、車を冷水と中性洗剤で洗車します。

JCA10792

注 意

温水は塩分の腐食性を促進させますので、使用しないでください。

2. メッキ部を含む全ての金属の表面に、腐食を防ぐために防錆潤滑剤をかけてください。

洗車後

1. セーム皮か吸収性のある布で水気をよくふき取り、乾かします。
2. すみやかにドライブチェーンを乾かし、錆を防ぐためヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。
3. 金属磨き剤を使ってエキゾーストシステムを含むクローム、アルミニウム、ステンレス部品を磨きます。
4. 腐食を防ぐため、メッキ部を含む全ての金属の表面に、防錆潤滑剤をかけることをおすすめします。
5. スプレーオイルを使用して残った汚れを取り除きます。

6. 石はねなどによる塗装面の傷を修正します。
7. 塗装面にワックスをかけます。
8. 保管またはカバーをかける前に車を完全に乾かします。

JWA11132

警 告

- **ブレーキやタイヤには、オイルやワックスを付着させないでください。**
- **必要ならブレーキディスククリーナーなどでブレーキディスクとブレーキパッドを清掃し、温水と中性洗剤でタイヤを洗浄してください。洗浄後、低速で走行してブレーキやコーナリング性能を点検してください。**

JCA10801

注 意

- **スプレーオイルやワックスは少量を塗布し、ふき残しのないようにしてください。**
- **ゴムやプラスチックの部品に、プラスチック、ゴム用以外のオイルやワックスを塗布しないようにしてください。**
- **研磨剤は塗装が剥がれる原因となりますので、使用しないでください。**

要 点

アフターケア用品については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU41515

保管のしかた

短期の保管

常に涼しくて乾燥した場所に保管してください。必要であれば、通気性のあるカバーをかけてほこりを防いでください。
なお、ボディーカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

JCA10811

注 意

- **水分が残ったまま、通気性の悪い場所で車両を保管したり、通気性のないカバーをかけたりすると、錆の原因となります。**
- **錆を防ぐため、湿気のある場所、家畜小屋（アンモニアが発生するため）、強力な薬品が保管されている場所を避けてください。**

長期の保管

数か月間車を保管する前に：

1. この章の「お車の手入れ」の指示に従ってください。
2. OFF 位置のあるフューエルコックを装備した車：フューエルコックを OFF の位置にします。
3. キャブレターのドレンボルトをゆるめ、キャブレターフロートチャンバー内の燃料を抜きます。これにより、キャブレター内に燃料の沈殿物が溜まることを防止します。
4. 以下の手順を行い、シリンダー、ピストンリングなどの腐食を防ぎます。
   a. スパークプラグキャップとスパークプラグを外します。
   b. スプーン一杯分のエンジンオイルをスパークプラグの孔に入れます。
   c. スパークプラグキャップをスパークプラグに取り付け、その後スパークプラグをシリンダヘッドに置き、側方電極が確実にアースするようにします。（次の手順中、スパークプラグで放電されます。）
   d. スターターでエンジンを数回、回します。（シリンダー壁にオイルを付着させます。）
   e. スパークプラグキャップをスパークプラグから外し、その後スパークプラグとスパークプラグキャップを取り付けます。

JWA10952

警 告

スパークによる傷害を防ぐため、エンジンを回転させる間はプラグの側方電極を確実に接地（アース）させてください。

5. 全てのケーブル、全てのレバーとブレーキペダルの作動部に注油します。
6. タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気を入れます。その後、車をリフトアップして、両輪のホイールが地面から離れるようにします。それができない場合は、タイヤの接地部分に負荷がかかるのを防ぐため、毎月ホイールを少しずつ回して接地部分の位置を変えます。

7. マフラー出口をビニール袋で覆い、湿気が侵入するのを防ぎます。

要　点

車を保管する前に、必要な修理を行います。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU42144

ヤマルーブ 2R

本場アメリカで開発された 2 ストロークレース専用オイル。
YZ シリーズの燃焼温度範囲での潤滑性、耐焼付性を確保しながら燃焼性を高くし、カーボン堆積を極力減らす配合とした鉱物性 2 ストロークレーシングマシン専用の混合潤滑オイルです。
YZ シリーズの最大マーケットであるアメリカ市場で永年の使用実績を誇り YZ 開発時のテストでも使用されています。ヤマルーブ 2R はYZの本場アメリカで開発された2ストロークレース専用油です。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索

製品仕様

寸法 :
全長 :
1820 mm (YZ85)
1895 mm (YZ85LW)
全幅 :
760 mm
全高 :
1135 mm (YZ85)
1175 mm (YZ85LW)
シート高 :
840 mm (YZ85)
885 mm (YZ85LW)
軸間距離 :
1255 mm (YZ85)
1285 mm (YZ85LW)
最低地上高 :
320 mm (YZ85)
360 mm (YZ85LW)

重量 :
車両重量 :
73 kg (YZ85)
75 kg (YZ85LW)
最大乗員体重 :
62.0 kg
乗車定員 :
1 名

エンジン :
行程 :
2 ストローク
冷却方式 :
水冷
気筒数 :
単気筒
総排気量 :
84 cm^3

フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

フロントタイヤ :
種類 :
チューブ有り
サイズ :
70/100-17 40M (YZ85)
70/100-19 42M (YZ85LW)
メーカー / 銘柄 :
DUNLOP/MX3SF

リヤタイヤ :
種類 :
チューブ有り
サイズ :
90/100-14 49M (YZ85)
90/100-16 52M (YZ85LW)
メーカー / 銘柄 :
DUNLOP/MX3S

動力伝達機構 :
1 速 :
2.454 (27/11)
2 速 :
1.882 (32/17)
3 速 :
1.529 (26/17)
4 速 :
1.294 (22/17)
5 速 :
1.130 (26/23)
6 速 :
1.000 (25/25)

エンジンオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ 2R

トランスミッションオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ　ギヤオイル
定期交換時 :
0.50 L

冷却水容量 :
ラジエターと全ての経路 :
0.50 L

スパークプラグ :
メーカー / 型式 :
NGK/BR10EG
プラグギャップ :
0.5–0.6 mm

JAU26366

ID 番号

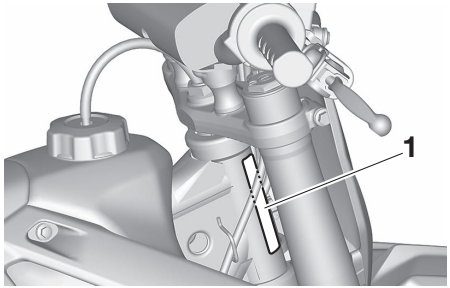
車台番号、原動機番号の情報を下記に記録しておき、ヤマハ販売店に部品を注文するときや、車が盗難にあった場合などに役立ててください。

車台番号：

原動機番号：

JAU26401

車台番号



1. 車台番号

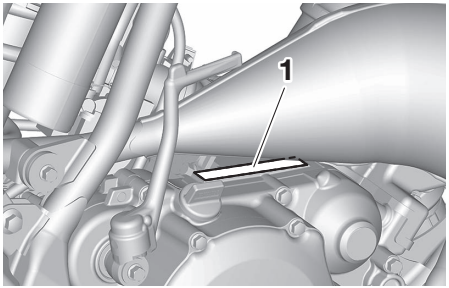
車台番号はステアリングヘッドパイプに打刻されています。指定の空欄にこの番号を控えておいてください。

要　点

車台番号は自分の車であることを識別するために使用します。

JAU26442

原動機番号



1. 原動機番号

原動機番号はクランクケースに打刻されています。

JAU36644

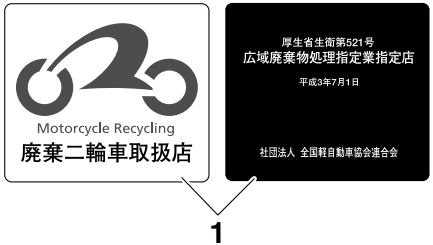
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。

1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/
公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル　部品番号：

QQS-CLT-002-B4B

索引

あ
ID 番号 10-1
アクセサリーと交換部品 7-15
アフターケア用品について 8-3

え
エアクリーナーエレメントの清掃 7-11
エンジンアイドリング回転数の
調整 7-12
エンジン始動
（エンジンが暖まっているとき） 6-3
エンジン始動
（エンジンが冷えているとき） 6-2

お
お車の手入れ 8-1

き
キックスターター 4-6
ギヤチェンジのしかた 6-3
キャブレターの調整 7-12

く
クラッチレバー 4-1
クラッチレバーの遊びの調整 7-15

け
ケーブルの点検と注油 7-21
原動機番号 10-1

こ
こんなときは 7-27

さ
サービスマニュアル（別売）の
紹介 10-3

し
シート 4-7
シフトペダル 4-2
シフトペダルの点検 7-17
車体の支持 7-25
車台番号 10-1

す
スイングアームピボットの注油 7-23
ステアリングの点検 7-24
スパークプラグの点検 7-7
スポークホイール 7-15
スロットルグリップおよび
ケーブルの点検と注油 7-21
スロットルグリップの遊びの調整 7-13

た
タイヤ 7-13

ち
駐車 6-5
チョークノブ 4-6

て
定期点検整備項目（一般）と給油 7-2

と
ドライブチェーン 7-19
ドライブチェーンの給油 7-21
トラブルシューティングチャート 7-28
トランスミッションオイル 7-8
取り外し式サイドスタンド 4-12

な
ならし運転 6-1

に
日常点検の実施 5-1
二輪車を廃棄する場合は？ 10-2

ね
燃料 4-4

は
ハンドルスイッチ 4-1

ふ
フューエルコック 4-5
フューエルタンクキャップ 4-3
フューエルタンク
ブリーザーホース 4-5
ブレーキ 6-4
ブレーキ液の交換 7-19
ブレーキ液量の点検 7-18
ブレーキおよびクラッチレバーの
点検と注油 7-22
ブレーキペダル 4-3
ブレーキペダルの点検と注油 7-22
ブレーキレバー 4-2
ブレーキレバーの遊びの点検 7-16
フロントおよび
リヤブレーキパッドの点検 7-17
フロントフォークのエア抜き 4-9
フロントフォークの調整 4-7
フロントフォークの点検 7-23
フロントホイール 7-25

ほ
ホイールベアリングの点検 7-24
保管のしかた 8-2

り
リヤクッションの調整 4-9
リヤサスペンションの注油 7-23
リヤホイール 7-26

れ
冷却水 7-9

わ

YPVS システム.....4-12

あなたの街のあなたのお店

YAMAHA

QQS-CLT-104-B4B

PRINTED IN JAPAN
2022.06-0.3×1 CR (J)